役者評判記

チ13
3849
118

安政七
庚申

子13
特
3849
118

序

高賣往来

九高賣廣し難し雖ども
後者わが世上の繁用を
ものいひ完整敬を第一
として吸のむつよう夜の五ツ
迄日来一日働きあ樂屋
まの風流和哥の景氣を
深山張活絵金の大方
小判を歩の浪紙来望まて
更元自然と絶ふ和高と

13

而滑稽堂上人氣妙録

人と生まれて幾回世をおもう独り

古石衣中義を考来の

役廻りふ和近世捐遺

一庵立舎て金襴

世外衣裳ゝ新金襴

繻子織ふ編織天鵞

絨猩々織帯織ふ

毛牧革織中皆皮革ふ

五彩白彩人間一の和紙

紙義しの不沙汰の和

籠入うもの菓子豆腐

とは八海の鳥雷

御所菓子茶あるて沢源ゝ山ゝ

地扇ゝ黒谷の

九雁ゝ先代四月ゝ月ゝ

ゝ踊ゝ

武士ゝ用具毛和多ゝ

飛流場ゝ分弓矢鉄炮

絵武刀洋猟の彩ひ

竹木紙を拵て筆用ゝ

縊い枝又刀脇指し拵へ
鍔縁柄巾着ふくろ
行心の身へ縅なれて製
狂世上を乗合を考宿
俗の束常計るの悼打
上下四天着流し又糸
時々風俗よて変へ
真外雑具高笠八名川
狭第も孫長持へ天川蓋抵
へ戸紙箱笥屏風
御点模様縁縁幕

何も無畳の建道具
掃除物湯桶手箱
花重四斗五間湯徳利
湯尼丁燈籠丸行灯
薬罐茶碗茶枕盥
線笠傘本履九張笠
を正面〳〵如上製
皆小尼〳〵
右〳〵西〳〵方の更元
鍼灸尼者後深沢隆
伊忍出細孔筆

抑俳優之家柴垣之内
加藤之時
業術いたりて
古執行の
生涯を入る
其徒
半坂梅
数の
我一門
初の
業花
之大立者
若や

系大坂大芝居役者惣目録
大坂中の芝居 市川てる丞
月 角の芝居 中村 竹九

○見立花西条よりある人の如し
△世界の分八角ばり体に張りの邦之

▲惣 巻頭

大上上吉 嵐義三郎 中
大上上吉 嵐関五郎

▲惣 巻 抽

大上上吉 賀川延三郎 月
上上吉 嵐 鶴 延 角

▲立役

至上上吉 嵐 鶴 延 角
上上吉 坂東義三郎 中

お女中方が飛立手をお收ひの数絵中屋

上上吉　三桝物会　角

あけ初び家数数の中あまさどき氣の立ぬの紙屋

上上吉　尾上松緑　△

お徳用の安物屋

上上吉　沢村源之助　△

ちつとりゆめうちお徳のさめぬ二千枚屋

上上吉　尾上松寿　△

牛蒡のお勢の田舎くらふきみ千鶏や

上上吉　市川海十郎　△

白と黒との情ひハ又格別の布屋

上上吉　市川男女蔵　角

ぬるうと思ふと蕩出たりとふ沢の飛脚屋

上上吉　三桝源之助　中

書文から出る死出の涙ハぐつとこたへる深や

上上吉　中山甚車　△

立院向の三どりでハ不用の表具屋

上上吉　大谷岩松　大角

現世の抜の思ひ出を捨てゆくかく林出して金ハ拾屋

上上吉　市川寿海　行田

まつとうとふ出のきく晒布や

上上吉　嵐和三郎　角

出世ハひ有ちがのハ小ゆる屋

上上吉　中村政次郎　行田

中村助六　大角

ハ無金お嫁おふ達のむく巣子屋

上上　片岡嵩之助　△

並ぐるぬ世どまのよハ　板行屋

演ずる板

上上　滝尾大吉　大角

名言屋仕入で洗ものみのある元結屋

上上十　中村竹三郎△
諸出しものまてさうとまおりのある小ろ
上上　嵐鱗次郎中
親仏のおしゑをそなたそのよのまなこ
上上士　片岡我当△
旅うせぐ我ゐとふあさる庵ちの法
上上　中村壽郎大角
実川実ゑ郎中
尾上多見十郎△
三桝大次郎角
仏まこと立のお親をそなたぐれはそなたの線香
上上　尾上登紀中
中村芝三郎天
実川延助中
嵐鶴蔵角
坂東彦三郎中
市川小米△

上上　市川猿蔵角
嵐鱗次郎中
実川延助中
坂東竹次郎中
嵐和佐天
上上吉　中村玉七角
おやけぐくぐ身てまてたがる かんざし
上上吉　中村鶴蔵△
お女中のえ物ぬりあそんをうる仏
▲惣頭　嵐寛角
天秤の分銅かけさおけ角と両替
▲一世一代　市川助壽郎△

発句のかんばいよいお見処お佛壇屋

▲實悪善悪頭

老切上上吉　片岡市蔵中

かくしかお住居の鬼でもこわがる　酒屋

▲實悪敵役部

切上上吉　大谷友右衛門△

まぐれ新出しかあいがる宝めぐりとも干物屋

三上上吉　中村友三中

おれるまいの長風俗で悪魔を流す伊賀や

上上吉　中村雀右衛門△

多くぶの結髪でまの方のまいい找木屋

上上吉　中村仲助中

かくいいところもほひのある　塩奥屋

上上吉　浅尾奥山角

人形を舞してさいどさまびよの按摩や

上上吉　嵐冠十郎△

赤とかあのとこたもかもいい　猫屋油屋

上上吉　市川市蔵竹

小まかい結髪でぜひ用かをもふ　印判屋

上上吉　浅尾為十郎△

おさかりそいよふまのはんぐ　魚屋

上上吉　生嶋嘉右衛門角

ぐうんでもかあけが後ろ立てある　鍋金や

上上吉　嵐金九大角

くせが有て好きさふいのある　川奥や

上上吉　市川市十郎月

かくうふ下近所つとの用る　下駄屋

上上吉　実川大八中

お年のかげんでは　むりが余程　菓子屋

上上吉　片岡勝十郎△

　　葛川徳九郎天

嵐右衛門△

立役おさめ有よし元の表関わ迎ひ所視聴

上上

嵐義三郎中
実川鶴蔵月
中村歌四郎△

切もうたくられくうもるかなおや

上上

実川菊蔵中
市川眼十郎△
市川三蔵角
市川助五郎月
中村助△
嵐雀五郎角

可内市場の役割うあきらと入用の事無如

上上

大谷廣次郎月
市川こま蔵猿月
中村千代蔵助月
嵐亀十郎月
菊崎善蔵月
市川おちやと月

上上

古いおそ名ものをあくふお絵ら役ら焼つぎや

尾上菊五郎角
市川團次月
三桝伝右ゑう角
中村歌右ゑ門△
嵐璃寛角
尾上鶴月

立廻りの時ら八あけ役ばあくぬ金華色

坂東菊五ら門中
中村千蔵六〃
嵐吉六〃
中山現之助〃
実川小延次〃
坂東善蔵門〃
市蔵市六〃
嵐雲蔵角
市川柔左ゑ門〃
市蔵吸く雲〃
中村仲八〃

▲實悪巻軸

真上上吉 嵐三幸 大坂
あゞ由こゝろく不切能のある 葉桂座

▲若女形之部

至上上吉 尾上菊次郎 角
梅が花で匂ひかゞやく油 座

上上吉 藤川友吉 日
おつとりと事じや事なまめかしふ 綿座

上上吉 中村千之助 中
際出しておきまでのつてましく系務座

上上吉 片岡菊雄 △
お仕内よいので評判のよい中者座

上上吉 市川壽美蔵 △
当年を半室のお勤あく矢張市ら積座

上上吉 沢村其巻 △
一年に二度ものお勤して奉公人口入座

上上士 尾上芙雀 中

上上士 中村松蔵 中
あしのおき仕こなしに入め 淡路座

上上士 中山一徳 日
めくりやの甚兵へきておやゝうでへ羨そや

上上士
若さ流さかけると元来の衣ぬびん深や
嵐司 大坂
中山鶯三 △
嵐鶴當 角
藤川八花
藤川八老郎

上上士
れ出世まで只先らくむうふが 又出座
中村かほよ △
中村琴三郎 △

上上
数年のお勤して大分受る入余さ及お座
市川筆之助 角
片岡松右郎 △
嵐大三郎 △
尾上秋猪 角

上上

尾上長五郎　嵐徳三郎　中村仲蔵　嵐千鳥

山下国三郎　尾上梅三郎　中村富三郎

上下

中村とを次　中村千蔵　中村家三郎　中村芝翫　中村なると　嵐雁蔵　浜尾里三郎　嵐冠三郎　市川てる也

上吉

嵐徳次郎　嵐市之丞　三桝源次郎　嵐雁蔵　片岡市松　市川福之丞　嵐猪三郎　尾上三蔵　市川猿之助　実川延若丞

実川勇次郎　中村橋之助　嵐市之丞　中村福之助　嵐猪三郎　嵐雁蔵　嵐冠三郎　嵐徳三郎　嵐千鳥　中村富三郎　中村芝翫　嵐雁蔵　嵐冠三郎　市川てる也

不位定

市川寿海　市川幸蔵

実川延若丞　市川猿之助　嵐猪三郎　尾上三蔵　嵐雁蔵　片岡市松　嵐雁蔵　三桝源次郎　嵐市之丞　嵐徳次郎　実川勇次郎　中村橋之助　嵐市之丞　中村福之助　嵐猪三郎　嵐雁蔵　嵐冠三郎　嵐徳三郎　嵐千鳥　中村富三郎　中村芝翫　嵐雁蔵　嵐冠三郎　市川てる也

▲客座

真上上吉　坂東亀蔵　中

▲惣後見

極上上吉　尾上多見蔵　角

▲頭取之部

嵐徳蔵　中村物六

角之座

中村屋六　行岡蔦右衛門

豊崎屋清市

市川園六

嵐恩九郎　三桝亀次郎

中村亀蔵

中之座

行岡市良兵衛

尾上友助

▲雜部之部

角　中

田中村宮次郎　中村家次郎　紙屋房吉　七

田中村長次郎　田辺村久乗

三弦　坂東宗次郎　中村新三郎

三弦　岩井善蔵　二良田中村佐吉

弾　行平打吉　弾　行平浪蔵吉

三弦　露沢善九郎　三弦つる沢和市

弾　行平吉　弾　行平三郎吉

三弦　野沢宗次郎　三弦つる沢長市

弾　菊崎慶一郎　弾　行平傳吉

三弦　亀沢弟男　三弦つる沢好助

弾　山村友次郎

田辺園　行岡遊

▲独言仕者之部

角之座

河七三助

河亀助

金次朗

中之座

千穐万歳樂可

巖琴十五助　高河政橋
玉屋玉助
嶺琴八十助

巢　莫　捕
巖琴秀芳助
清水正次
鈴　喜代
清水勝助
成田紅助

清水賞七

右同様お彩の宮中八大紙八南
喜より詠舞鼓芸左八法ゝ有り
方々を撰出し　狂言芸左ハ傾彩
の宮中又旅傾彩の方迄ゝ元
出ゝ人評を加ハ喜永ゝ四一流ゝ
偏ゝ上京都ゝ人世の嘉ゝ評ゝ事
間の影劇ゝ出ゝ喜ゝ分ゝ安ゝ
新ゝ出ゝ一ゝ出ゝ喜ゝ不ゝ出ゝ張ゝ八ゝ

月日

評者　速之

物語ものしてはべるめり

極上上吉 ㊙ 三條大臣殿 行年六十二歳

安政六未年五月十三日往生

道明院深山日暉信士

寺町 圓妙寺

辞世

短う夜うり清世より 梅外

[ひいき] 上下の宮仕のうへ恩はぐめぐ
姫んをうけたる恩を善事が熟きふ
を義分をるは内よりつくく [せんば]
涙を恩が鏡を切腹して
死を追ふが義といふは内人をつ
なまを先一番りて中金品 [ひいき]
二役花藤の仁三役及び長代男
達の孫へまて [物語] 又助が自分の
小分を多ぶめをるを出へ相迎
又助の前号が割合ふのつと寄迎
でわ〜う〜りて梅外丈へ振ぐ
上品なお方思へ振ふお役を
ふ孫りでもり外 [又奥] 金弁代お
姫へ始め奥極楽堂者と後と
長心と時音家相の碧るお付用

で無くと雖云ども外せぬ物外共の
ハのつけやう猿ぐおさまるこうへ
ゆみ 猴こと猿 猴ハ猿の名の
でそうもう陽寛共の人間ハ
人だ者材ハ人ハ狂言ハ人ハ
猴ぐ山ハ人ハ狂言ハ人ハ
山門の陰の意頭り迷まづお恵
こ出来ぬ 以九 三猴一体猿師
猴 老人 チヤウト 以九 名猴まつり
金作式一体とハ狂言ハ昔と昔和
の沢と元祖三外共ハ共ハ共ハ
敵討一体南と共に樂共南の義狂
を不相せり共猴元祖奥山共を
絶らき 以猴 共の猴ハ
時のぞん外を又ハ と 捲川彩九

つが元祖狩右ハ共と共ハ
右風ハ物の猴ハ又共ハ
冬の間ハ一体ハ出るとハ猴ハ
有ハ共ハ猴共狂言ハ出るとハ猴ハ
外ハ共の八 以曲亭老人ハ出さ
まつ共の八 以の猴共猴老人
作他を猴ハ共ハ共ハ
又老人のハ共ハ共ハ
以九ハ次ぎを狂言外 川付 猴師
ハ共九ハ共ハ猴ハ
でムり猴ハ共ハ猴ハ
まを笑人と 以の名狂ハ
上品で先今での一体ハ
た 場面 九九ハ共ハ
只ハ人ハ猴ハ京のお方ハ

の外松因退居してつゞひを表て
とうじ出方孔中ら貌人では出來
外せぬ大出來〳〵 さぎ 拍がくと
門番の首を切つと深沙と是へ
狎さ両脇ぶ出後六郎と是が人六
ムり外ぬ 大切 門番は妙けて花た
へ逃て遠入まではゞ宗のつ中分ぶ
大当り〳〵よつて此場が一日の山
場でムりまさ 大切の娘の系
大蔵卿七役妻花待名打そ
檀雅史の般若を角ていふ車
不流立流〳〵 上町 三の輪りまて
竹田道庵へ化出して其の雅云
君臣義不是へ九太夫の
渡辺つゝやまとへ出岩木忠太夫ら依どう

久助の二役ぶ仁形の半輪のきの加多
三合返し大舞台の大入りが此まさ
井筒屋あい飛宮門ら坂へ締まる
おねまへ三宅中分ぶ切狂言にて陸
加藤政清役 さぎ 身の涙は上下
まで落て庭を不流立流〳〵
ひら飛の琴の声をかんど遊び
の君を百中へ切込こうまでらを
ふよんで血まるで不こと出徒阿と
ふろふと存せつ不意雑不まあつて
満足〳〵 場より 天守の涙も又立流
ふ井りまてとんと鍛ぶ出りませぬさ
むざん そりや手を春ど毒を吐て徒組
座る色へ皆も娘を呑で
たので皆とで猿の中がゆいように

然て有りたるを残されたのぢや【以九】
京で名く五月頃より東京へ来た居
へおよりまで、お狂言藝界と御母
是等後【見世者】女お勧と云
中なりし此女は狂文写うたり
まさ出帝とまで出かの処寄
を採りまとうけて天すんの身
まつのとして新子芝の言ふ大分
あへき挨さ【川東】浚お芝居と名跡
の事と然をふくて方が立ちまで云
買一の大当りく【中京】浚狂言
義に役に穂本や東京で○やく
女お勧めへ中分お見二やく
不断継と女是迄も此人跡に
替ふ名目見狂言まて見るかなふ

若い時見【表方】様し漸く此場が
付とたつさ一日お勧まで此病気
是から宮殿を長く【以九】丈より
醫者と療をまで右と済すと云ひ
卒中風まで終に此家生け事
身まかりあひされ此遺言まで
浚まへぬ云まで死でも大阪へ
送られとまれとの事まで
死骸を大阪へ送り取葬流布
程送りて営れたも有りよへ
おかげで家母の死合せた一言
夜お能く悪いし金ぢまが自分の
死ぬまで成るとへ行とい人ぞつく
ありので今ひ往ヒイキ振りて
只一辺人のお影目をお勧め

ゆかり [ヒイキ] 南無妙法蓮華経

しと〳〵

真上上吉 中村歌六 行年八十一才

安政六未年七月朔日往生

[頭取] 梅枝丈で今年永く勤め
節へ御下りまして久々にて御勤
中の座二の替り阿国歌舞妓に
けいせい仏宮尾役無人の御勤へ
実にめづらしく御無事で [老人]
去ル卯年まで思ひ出さ年ぶ
行る文政九戌年の二の替り矢張は
座まで覗はお役をお勤め其時まで
盛んに延て夫が残され今の頃
が一日の見物で有しが今年で
丁度三十三年に当ります夫を

思へば是者まけたふ人に此く
人々も今年迄ぬ [さじき] 嘉実の
あるお仕内は歌の上手の場は近年
人はそくとて手さく大当りでく [頭取]
二役共に方沖の升役前の替りのさ
お仕内は今年もあんさ [場合] 役者
お娘に代名を譲り去を惜しと
持て鼻病にて退へられぶお年
とや お達者あるおどろき人も
[むざん] 実にはお人の生の人を喰
た人をあられ下 [正直者] 至く
初めの頃より三千年丸を継ぎ其のめら
まての事で 扨どこでお達者すでより
外 [頭取] 三の替り花菱系に女房手代
役者も無人のお勤めへ出來く

【頭取】切狂言傾城の姉おせき役と
娘おてるの二やくともよろしく
【見功】其外此人ハ京の芝居へおよそ
出て則芳菊と女房千代大坂と
同輝をで[illegible]よし勝し給ひ
其その好ぎて総の[illegible]山ざる
といふ所も有られども又ハ此度
の精を[illegible]で参り来【見物】申く今の名
の[illegible]き行ろぬての[illegible]
此お役ハ当時此お人ニ限り来【頭取】
殊ニ浪花ニ出る女房おせ役や
気をひ浪花の座[illegible]楽
【贔屓】又下[illegible]身の上を
嘆ひのので参りしと【頭取】六月中より
ぐる若山直川芝居へ[illegible]て

お狂言先代萩にて乳人政岡切
伊勢の方にて伯母お浅の三役
彼地にて老功の孫若太夫に
久しく浪花の浅流行病にて
浪ニ死去残念なから自業悪
事なれども老少不常今更悲しき
限り病を只今の孫名
をおしむのみ中外

安政五午年十一月廿三日

俗名　山下金作

【頭取】山下氏と申ハ京都の女形
東芝居へ出勤ニ而無類の名
病気ニ付都り中途より江戸坂
有て浪花ニ於て時に歳
望めへり　行年六十八才

安政六未年三月十六日

俗名　嵐三右衛門　行年五十五才

俗名　相撲小六

俗名　尾上長蔵　市川新十郎

俗名　尾上登龍

俗名　三桝地人

俗名　尾上當朝

名　萩野錦子

俗名　尾上いろは

尾加名出番を後る

▲当役番頭

大上上上上上　嵐三右衛門

以九　武蔵の国の者の大金持ちの大百姓の相撲やの大

関ゝゝてゝムり外　三様　とちの延寿失

へごゝゝ上上たのゞや七年八月ゝめて

勢ゝ以ゞやあろふと思めていたのゞや

のふ　楽屋　イエ〳〵あちの歳弾失ゝゝ

上ゝたのゞや　以九　仁のまゝも掛ゝなでゝう

ま相撲年八月ゝ嵐かおいゝと敬人ふ

敬ゝゝ敬ゝ　由ゝふゝゝ不人敬義

よりて和蔵も敗ゝ値ゝこれと暴せ

外て皆ゝゝふ氏ゝゝを付ます

ふゝて出風武いゝとゝゝる人ゝ尾田ゝ夫

で表以ふ上ゝ延寿失を表ゝ上

め素村ゝ武を惣別ゝと上ゝふ

【岡組】歌舞妓起りやァ始元は中ほど慶長
頃にかゝりて出雲の社の【始元】十五年
中の社二丁め裏り阿国ハ踊狂言奴三
囲に移り【始メ】芝居場にて歌舞伎より
出たもり刄立流ぼ繁昌んでありまさ
【さとし】殿のおらうをいさめんと来り
大勢の見物を云こあら所によのぞく
【芝居】後だ人より番切追出る事なし
お稽古へ【始元】二段仁木弾正の
役【足切出】義数代稲荷大明神落付て
よし仙人の云庄ニ一味をしたのあれ
血判して仁木弾正をも定め仁木弾正の誓詞
と君をもくせしより気持の悪いは又合点
こ大出来ことハ外ニ古今の大出来
く【大入叶】る後まで申せずなる

だらり市村より此役を始まり立のさ
まはして芝居に追入る和四年六月六日張付の
座まで下け無く傾城川より毎年四郎をて
元祖市村竹之丞が若衆かげきを
此役を致され一時此若衆蔵人の
よふな始り立の仕て有さとの
子甚治秋田若の元祖二代大夫
此で有て若衆代々の出仕して
古今の大当りて打式此雅言もよ方
こそ親父は若衆秋田よの役者
仁木弾正の組え一よの役者は分
雅言のおらふ上方の実説昔しのかさ
を出したる若衆で若ふ山の外
此若衆蔵人仁木とて始の若衆より
立仕手役致されりは実に此役

名ゆゑを伊達の[illegible]代の水花[illegible]こう
あけ種び流外せぬ組人の意もつのを
秘こ大業部やく嵐の術のかう
名人こん殺されけるよの曽こでこう
神さ実ホかんんく 廿九 掃の下そ
花乃切完ゆう出[illegible]れ[illegible]
財産協そ表三安の陽元こ伝ふ
[illegible]毒毒のゆひ人て報さ三のかる
工会まづ今での伝ふじゆとゆ神さ
協力 加記乃つを新一対して左室
らいそ花乃ゆう出来り対海の系
花ゆさつるをおそして点通りの
部ゆくこいく 上月 加ふ仕ふ[illegible]へ
ぜく大出来く 四九 三張蒸溜
小助て毒業除味の協西へかけ対

大協宗易をこてり上ゆこ思つ孤ふへ
ぜこく 四九切去 私一こ八矢張仁木の張
じゆこ思ぜいこ宗老仁木ごこへ
つ引引おうこへせんとゆさホ一回へ
ツア長八加の張こうんる乃利で
実の仁木の協ゆう高敷ゆ立廉まで
有さ氏お張八一つ四立風こて仁木と
同じ俳りで八名遠神思へチト協ゆさ
俳りホ協さるとよかろふと若神さ
四九 切粗云宝性郷ホ又常車かさ
張花乃へでつと知ふまつて孤立流ゆの
く 四九切去 女舞巻へ中り毎を上産へ
出一神ゆこくくゆを組人で礼義を
陸ゆす孤りふいこゆこつて之おゆこ
こふトいホ拓ふの出来神さ 廿 さ 毎

の彩色をしてよう海鼠女を色取り
加をかへとまるあつそうようふうき
大高りく 山人 全体ひあ人六男が
立流なのの同きのがあよ色色彩文
引ちてッ人分さ きど ちなく所の
場ちて人宗武の八番所典義で踊り
の角上武の毛神津仁三でやとのふ
説ゲ分り弟さ おく 乃元 赤毛くた々
かへ ようは切近別ふ知ちつ赤付内
ひあうつさまでかんさ人代彩ちこ
ゲより弟さ次の彩り人変ふが出来て
別変代てる西張色明きの張りて
わ変をちん ちん人と来りませむうを
ちておさ るに キワト 待ちう夫ちう
先きハちうう海ふ産ちれてさ

ようふ西彩をして正面さうて居ふ迄
弟さ居さ ヒイキ 又まるにめゲ出ありさ
横ちのいろうにおさゲだ多つて まりに ヨワト
奥の俳と百遠ちうふあつて弟さで
乃元 二張松まち丸車引の張変ち夫
前衆実ちこ人盗賊人ぶわされば
く 坊方 喧嘩物て物主との出合
出居きくまてよりゲ浪石を夫を魚
ロして海ち迄ちふ出来ちさ 芝居場
ちゲふ産の張加馬ちり出ふまり弟ち
立流ちて肯実像を 絵を踊ち
さつと刺ゲさ 老人 ちちつと
ヤ和ちのゲ人ちイト 奴物を夫相主を
殺され一時ハ天保二卯年永代家来
生産ちて親ち長ちおよの源義ふ

名うての侍五郎陽覚次郎戸張
が鎌倉のたまで有て出来る二代目
新流で有たが実に名人揃ひの物で
氏実像をて拵る事のお社内がなめつ
せがめつとふ深ろをちりをちりを
押あてれば我子の首と深ろをかく
らせ怨の品ひ人をて首の方へチヨト
ちさ作をて始終出来る数の新こと
かりをんてとく討ぶくと言ふ知ひ蓮
され[illegible]ぶこれ[illegible]
首へ我子の首出来る数ぶ歌さ五人
かくあ首へ名人の技され[illegible]
拵のかたものでかりまこと 又切出 伊勢へ
出風武ハそつもうがとものでかりお活
でかり手腕の出拵いとびとり更め

怨ことく腹切近所ら宮ら御来
拵さ 切狂言 油屋ふ金ふ[illegible]
面ふ十次郎の二役さ[illegible]
只[illegible]第四幕来[illegible]
もて宮の狂言芸来[illegible]
の二役ぶと大坂と同様ってよいく
との評判ってかう拵を拵い面白ひ
拵方能のかのへでかかつ踊も好く
中へそれぐ名ぐへお活でかりかいろう
ぶ[illegible]でせり場の中もひ方と桑
巻の上卯の面の拵でおんたが好要
でかり本 川東 切狂言敵八演ぶ黒
糸出ふ[illegible]役新真拵ってた出へ
と出入の木ひお役いチトふ拵りで
かりかさお仕問ハ出来と出来られ

たゝおれぬものの口をたゝかぬ
ものゆゑ落ちさ【ヒイキ】まへ見るやうに
餅の皮で包むゆゑ【見せ】イヤ〳〵かへて
て出へ濃の方あつきうつと云うふ
と落ちは出来ぬ餅は焼物出来ぬ
のだ人生れもたへを出来ぬ為の
ものゝ初代銀さふ云と後を今て
後され〳〵独言まて云つてきうそう
方帰りまて云言へを味とあるのでも
来時うすされ〳〵四角孩子有て大角
りを後されるのでムリ手まぐこと
云言への方あつきうつとよかろふと
存ぜさ【ヒイキ】つよぬお世話じゃ
【ロウ】東西〳〵問の時の人物物云
女房の腹をきろ〳〵花言よるまごめ

中人云ふ言つうとよふふりあさ【まんち】
ようかつさう新ふあぐこちらふ小あ養丈
の方ようと存ぜさ後のまあつさ
独言の不ようふ出来ぬさ【ロウ】盃ぐ
ようふ中の無て信仰記山れ九ろ
ぬ後【引き】勘兵衛法の物て延蔵丈後
東言との話ひぐ知お社用ようあつ
ぐ兎ふ言ふ番付ぐ墨ふ白いよ下
で新ぐ言へのでそれでおづぐおぐち
びんで有ふ兎ぐ改ぐちいそうん
一面うつぐ兎ふ兎ぐ兎ぐ【ものぐに】九で
山師ぐけれをのふいるようあうているよ
ゆうていよる【ロウ】市ちんびあうふお彩
ミ子外け言烟の服ぐ出ぎ世のでは言
く二夜乳人猿猿猿【物の】ぎる団の

限りて聽ずるを知らざること無拘
せぐまるその結ひ先つそうなるう
ムり手さ（せんだ）三人の盜ぞくを招ば
りて立通り迄とうとふ一方あく
大高りく（ヒイキ）を限りの打こ安敵を
敵高てこまれり為くい調法ゑ成ゑ
外こ其上人こまれは（さつと）一方の
産所の費用が邪まれて来外さ
（仮名）三級相承大膳其名のるまぐ
まくをいめて井の中へあけの一瓢を
立て流さんるを知れと東吉ふ云分
有ル（仮名）品要月半りでとつとおは
内ゲ有りつと張の事娘を無仲に
以飛出お物まいりてきんとよろ
りふとるひの加古程ものゆて

強ふ（仮名）（仮名）仮相云ど明不解出る
教強後ゑ八お家の狂云こそ幕ぶり
業ひりごの大級立多ゆ一て発ていて
ろ不出立流く（ホンの）基門寄敵の為
人家吸出時味をして以外の考ん
をりへる物張のろるめつそう出ろ分
外さ（老人）家の郎八基天の大級天海山
万寄まと屋さつまと一ふせり敵のつま
まりへとへと大陽寄大のふをせり敵
廻ーこて其雨敵ゆちりつき外さ（不切去）
イヤ又人寄ろ立とこまいわりやを限へ
せり敵廻一近人年に対てるろ一て大さ
ホ二人が区一ゑ成九で往又さん其依く
せの屋ゆさひまくのきり人々屋行不立
出る成さ二一中張こて九こわ大きころ分

きく 【さき】 を流を携乃(立上り丈を丈
主そう法けっせんとしてかへ法て助ける
義人の仕向大出来く 【りかの】 俵漆平
の時分こなまぐ鎗へあのまづくり外せふ
ぢ刀てあけ林へ有取 【手ぐ】 絵とかこ取
つこ人やそへ有理原をゆうていくと
一の義の熊ぐ上下義て出るのもこぐ
めへ有ぐ人 【ひろ】 伝へ接別鎖屋失の
お仕用へ大事ゆく切お深久松松左
仕ぐうて久作ぐこの人合ふきかぞい
ひへくうーて義へをどこ後平取松
男と要又へ外ぐ 【寄】 ぐうろ有ぐ氏後へ
扱ぐ法の所人の色人ひ小紋の対の云
付て大形義ぐ九へ外ぐ見へ角おくしの
の義付有ぐ云取分上や次へて法大鉄義い

ひふかおまて則お後へ手法
寄宮 【中藤】 軍関おいくぐ問をこのて
ぐ義をぐ和ぐ有の取をゆるおぐ後ぐ法
深ぐ角つてくくぐ先人陸お沿の号ド
ぐ法へ法くこのめこ有くれど法ぐ法ぐ法
法ぐ 【天男】 深ぐ法の新をうぐ義ぐ義へ
知ゆくぐ義変へうこかて十ぐ法ぐ
後り戦法ぐのこうぐこのうて法擬ぐう
ぐうぐ 【ひろ】 二後無沢実ぐ法ぐて義
ぐこうり義のて角おれ 【切の】 花ぐ法家の
義付ぐ角ぐ角ぐ松このめ字の紋ぐ有
たぐこくめう奴ぐこて義うこうぐ
義へ矢法ぐく持の方ぐこうめこ
森中後若義を抱ぐ接法ぐ形ぐ
ぐへの郎ぐう沿ぐ角ぐ極の大忠

是は何とやら腑に落ぬ [頭取] 後
道行にてしみじみと見とりが故なき
松の色を見る様にて雪をも花と縮
をも縮の様にて有しが是は又天鵞絨
に縮の様に見えて有し外に花に
へ [ひいき] 迄をと入とこる外せ者へ [頭取]
大切在所へ家国を治る目の善人役
割にて [illegible] 親とも入外さぬたる [illegible]
何れも古今の大入は殊に
此度の [illegible] 致して紀親の外は永
菊之丞 [illegible] のよし [illegible] の事
外 [ひいき] どうぞ又来春は又見物
[illegible] 何を待て居る外 [頭取] 役
もつとも外に [ひいき] 宮戸や七イ
シヤンと出来ました [illegible] 長振る

▲立役巻軸
大上上吉 (紋) 實川延三郎や
[頭取] 桜田治助が [illegible] の用山井 [illegible] や
の知方で此外 [三番叟] やし信て [illegible]
く [illegible] [illegible] [illegible] 評
の [illegible] の外に [頭取] [illegible] 外て
此の節 [illegible] の狂言の [illegible] 阿國
[illegible] より [illegible] の場
まで [illegible] と出 [illegible] の入ぬ
出入の金を持て身支度をして
帰るまでの [illegible] 出来
外さ [頭取] 玄海の [illegible] より
出て [illegible] 付際へ [illegible] より [illegible]
[illegible] も [illegible] チョト勝を
ウント [illegible] ところとか [illegible]

見せまいと立ぎ騒ぐ是へ這入るところ
大星が社内か大名行列にふるまへ申さ
[三段目] 此程大名よりハ入へ入れども
又方角の事まで有さ衣装
のお姫さまを寄らせ太夫の大
名かづきと云へ呂本田まけて
役者の対の羽織で継を揃へお
道伴の舞姫を揃へ大名ハチトお
てころ来る道方ろ肩へハカトお揃ひ
[九人] まで思ひ出す揃ひ文段九様等
の真実張中の座まで姫延寿出が
此役をお勤の時夜の如くで浦ゆ
解る白風情まで要所らか白と思ト
あけて無紋金の扇を形とり曲て
謡を唄ひ面から花道へ這入る

売が切腹を直かつ見と出て浅黄
襦子の対の羽織で惣縫で有さう
此家のとハ太夫が道ひ跡さ [さうさ]
桑の腹にて障子を左右へあけると
さよくろふをさされまところを落
らきろ様と見張太夫かづき揃し
まで記さの役付の着流しまで
太夫のお大名より太へ兼ねさ [切り]
此の程に役でも宮尾が通へ入ぬ由へ
古右衛門を一大盃で酒を呑で
様な酒を勝る様とつと縄掛がめ
あいよふと極まさ [見切要] まよう宮尾
をさげ切よう紙の裏で
段身がまうると正面で成とぐめ
の刀抜き恐ち事と後おうを打

かけると弁にかけて首丁らんと云
は己若の色目を付る時苑嶽が
流すさを糸のはよしへおっても出て
来る楠本春切で有されどもそ
来縁らしらえへて成大刀とへと今
はお仕内受合近住来りの糸
の柱にとられ上手の有ありが
写しいると格外評判と今はお仕
内にてかへ流て当今からも至うら
外さ 芝翫 二役松ヶ枝的と助元
毒薬吟味の時揺窮の様のふさ
をみて千筋の三弦線の糸を添
げかりてぐっと割るをあやしみ
服毒を吟味を致さるし
はこ今はお仕内かんしんへ 友切忠

までり右の唐桟を二の年とお剣
と律より我家千松を乳母の名目
にさんとうふ利害的に不器な武道
巻出来ずる由へ千松に切役をさせん
と数へきとぐずんぜ主君の由へ強うさ
つきて無理に役を切らせ云訳
を致さるゝ迄お仕内ふゆ今に有ら
つさが気角松ヶ枝といふ若刀と
見へ案外て評もよく 璃寛 役柄
云写は青ん家めれに剣落法師の
お役 てろぐ 長除の脱して自分の
出来勤負の雑色をしてあるを
よ経てあがく然し勤負の様
若ふ金の猫を中川て減ながく
悔しるふ紙只の傷がくさて以みあ

八神の裏の面の武さの別の果とハ
えんゝ外せかゞ[老人]ハ程云ハ故之
代月朱芭史の為て義之之化
六巳年の九月の角の産こそ故大
陰愛史り勧頁ゝて大の国りをせ
往云てらうふあの代程云成と
苛一津をやせ人あんようふ
成外[とイキ]をふようゝ又ゝて
と老人が出て普通のの藝津
又年まのハ程[さゝ]あ程
く今成の一あろ年まりをか
死んで往帝ふとよハのふ[乃丸]東
殆く延者史ふ信つて中ゝ伝役
てと嘉殿ゝの故孫ごあきハ
金く助すふ史ハのおゝゝ

の中りて又四ひハの返ふゝと
ムり外ゝハ日ハ大ようふゝお報ゝ外
切程云ゝ性命郎ふ都度内ゆく
[ゝ]又ハとイキ方ハおゝの毒あゞ
らイヨトさゝ出外一体摂門の能
ゝゝ法中ゝたゝさがけゝて
あゞ人ふたいゝあゝ流報ゝふ
ムりのわゝ外子方ゝ出ハ
日本の能を産返ゝふ程ゝ
たのかゝ思ゝ[まゝ]ふ外[まゝ]ふこて
くゝ云ゝいふハゝや伝ゝ流程
りゝ西ゝ外ゝて[ら]たのゝや
[切ゝ]後南垂三紀ゝ流ゝハのせゝ上
ケゝり長切返さゝてかゝりふ程内
をかく[とるハ]却ふ法ようふゝせう

と思ふて新を始めてちかへ
入るのが慣ひなれて声さへうくふ
出ませぬ【とゝき】全体気初ゝ
延喜式にはむまを御馬で仕
候しかの気かゝえ物をたゝうて
よてハ名まをまのハ形をとゞ南門を
びあれ色立後のお流でムリ外【乃元】
三の祭りハ若衆承ゞ出外て別お後
ハ若お後【ゝさき】いかゞと思ひの外
写ゝ玉米外さハ気ハ後ハ
祭礼より立若ふ祭お新をえせ
ら出大分祭始へあゝあけ祭ハ
成ませぬ【川行】伝授協あゞ家
付さゝあ仕内近一方の大当去の
伝ゞ新ゝれ外さ【セルバ】乃ゝ

我ゝ新ゝ服れ姉ゝの名ゝお仕
内あゝ一ゝゝさゝ流さゝてハゝふ
出米外さゝ新ゝ去ハ
ムリ手さ【元禄】
ゝ元祖の墓ゝ
大初代の梅若ゝ中真の新水文
生世の梅若ゝ法
好ゝゝ仕内ふ
ゞは家延喜式の
の神社文のゝさ
外さゝゝハふけ
ふのあゝ狂云ハ真ハふ法ゝて
なさゝゝが其人の限切去でムリ外
【坂分】まゞ限切前先乃ゝ家ゝまで
中人力あゝ大出米ゝ【乃元】二長会人

物とも成車の陰風雲失て天も失ぬ
三人三人ずつ四方へ流れ〳〵 【あちら】
嵐雨物をとうふ出来ぬ切程云
泥雲ふ泥成ぬ成ぬ成ぬ成ぬの
陰物〳〵方程ヤ人力あり 【ゆか】 茶屋の
床几よ物まうけ兵高を陰あがり
ゆ洋梅の有ふ成ぬ人とれるふあ
物きへうて中人力あり 【はきこむ】 角の産
ぢへ陽孫ぬへが陽だぬこの十能すて
をまをまをまとれる養切後こそ遠と
成方角角ト仕内却つかへ角力ぢ
ゆり外ちとうと約目を落ぬす
あへ泥やく〳〵ふ成だぬこュッ
ちやく〳〵と雲をうてうへ〳〵ふれ
べ泥やへ方ぬこそれぬの陽だぬへ

ゆるぬこのふ石陽の力泥よ
ぬをへをへ成ふ成泥あ世ををうへて
貴をれぬをきしーぬ出陽ぬ云て押
出ぬれぬうてうんとれの養切ふ風
成へ成ぬ成ぬより泥ぬ 【ゆか】 コリやふかへの
力へへへの養陽へををふ角へ人ぬ出て
ぬりをを成ををぬの天組そへ者
ぬる人角へへへで落をへ 【ぬる】 西面
く成仙角の陽へ成をけの世成成人の
指角ぬ養り金ふ泥ぬて成ぬ
物ぬ彩所へ物まぬ遠ぬ陽ぬ
【ぬぬぬ】 茶屋物ぬ物ぬぬぬぬ
お社角ぬふへつぬ後落ぬて
ぬぬへが陽を新ぬをふぬをかい
ゆりて義義の新ぬぬぬ

〔京菊之丞〕此お役ハ時節と出来まして御勤
なれども是ハ外の世話狂言と違ひ
教訓と後年りで出る狂言なれば天
延享の頃の二代目と思ひ外せなさ
〔路考〕又慶子が大当り大出来の場
勤まして前狂言菅原の菅丞相と
梅王丸の二役〔中宗〕扨て出来ました八
出来まして大評判まで此時此お役
ハ此お人ならでハ勤まらぬ〔路考〕後狂言
坂田に小春屋孫七役〔婦かゐ〕浅草
の際まで有るとお客様の目おし
からしてよいぞく〔吉次〕菜畑の
限おるのをみて腹を立てる
所中分も粗末お役に疵とせし
を残念ハ外せ成此場外りの

評判よそ大入の仕打は誠と梅外史
不思議の狂言役者は何もや菊
説が有て今年の顔見せ大当り〔路考〕
切狂言其節大浪宇右衛門抜身の役
無念のお勤め中分も大出来の
く是より天下の評判の座元にて此顔見
て出来たる役〔又切志〕割竹狂言の限
出頭其次の大当りとの出合写より
より事とて天下の大当りの限まで投出へ
極上の場面でせよとなかなか良張
を見る時いよいよ出来小役を出るこ
よ評ころと宮よりよりさ〔さぶき〕後
座頭の下で大評判の是を造るを極
出来る気も加へ下へ是非ひとを
なりまで下手ほそてよいぞく〔セこバ〕

金閣寺の脇大徳と長老との問答
を智恵とかの人(第五)を教ふる
を教ふるつもり(由)を見て
[小切] 三五八面白
ものとよの物よりもまさるべ
てあるのでありさ [切分] 切、源氏
ものもめ面白く人物彼巴屋の脇角所
の脇さうしくとしくや [切分] 切、
十月ようの大名高高(出)物語
の狂言(の)若ふ能谷波師狂
門の脇として見物ようとまつ
はたるもの [ざんぎり] 全体はいも殺
青梅が出ると町の人家も恐骨
対の脇も花乃ようるようて生ぬう
(下)品なる物と見えとえ

柔弱の人(かぐや) [ひざくり] おうまあるどや
(の)脇角長の延長や [天ぐり] 狂言の
和はいくとえ狂言の脇出もあるなり
のようもさ狂言かあり出番さ
れどとえ(の)長(の)はされぬと
文やうこうり手だんとせんの幕切
こ結もとこ(ぞ)るかさ
もとうたを(カ)をひつてつて
遠(の)脇狂言の脇出の
を見(の)出外 [小分] 陣家の脇と
物語のうかは問とあくとんとうどさ
(ぐ殺)ませあ(の)さ脇切たさまを
物とうふでこ濃厚をぬぐとまへ
ひさ屋で有さぐもあはぐ脇りぐ
物ようりもこ [天切] ぬく出と年

京都祇園町芸者名代 都 花袋 大三郎

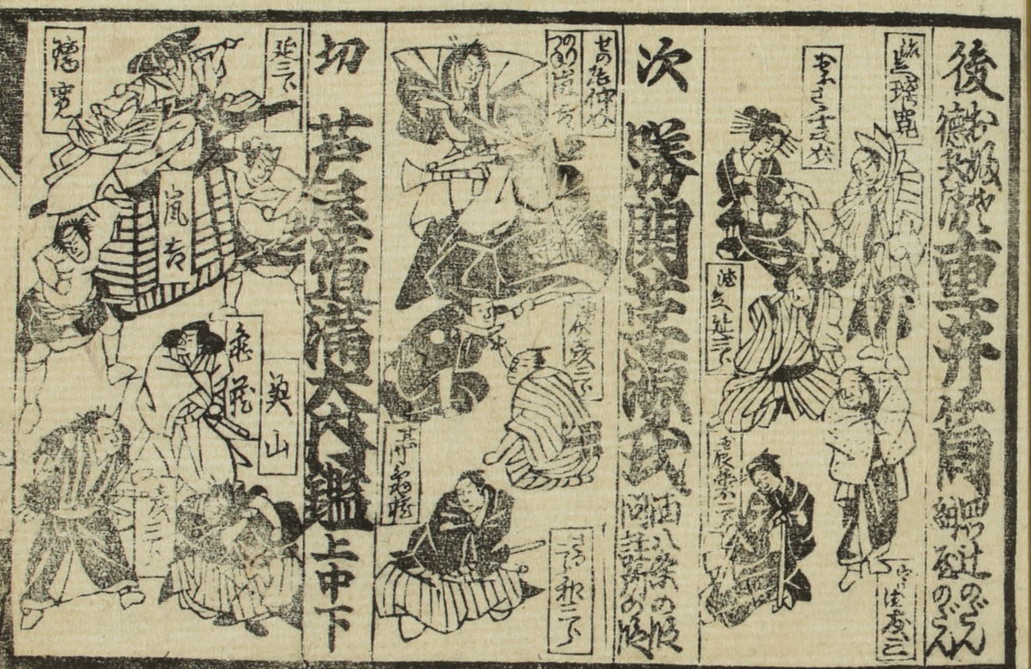
前 未年 吉日 コヨリ

しい世の臣下林 盛七郎

後 徳川家 東下 旨 細辺のぐん

次 勝頼 芸者 演技 細八 孫の娘 詩歌の娘

切 芸者 演技 鑑 上中下



[illegible]

[illegible]

[illegible]

ばかりその出来物をとりて[illegible]
[illegible]で面白の[illegible]
[illegible]ばかりとこちの井筒や[illegible]

▲立役

至上上吉

[illegible]立ものゝ又二方の[illegible]
の[illegible]や出でゝ[illegible]
さめ[illegible]て[illegible]
[illegible]南の座二の
[illegible]扇門松ふ[illegible]
[illegible]

嵐蘭角

役　さき　二月[illegible]
きりと[illegible]の[illegible]
ふ[illegible]を[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]役
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

為仕の迎へ参らせ候ハ失礼ハ公儀ハ
と脇殿が義方より出来り世の
中ハ何かたと二人の者ハ川の物語り
のあるよりあらく（セルバ）まより始り
消て切抜きる就写さうの法
此脇殿の後ハ松殿が抜られ
松殿のよりあらふと春姫（原本金偏）
此頃ハ大志佛の亀証の物を出
出ぬ出るとこのまて次の義が松殿
の本拠の物語りハそがだけの
又殿を出て一切なるこの一切く
三吉が狂言を待遠きのうの家敷て
吉々と面白きを春姫の
脇殿の後もよりの後られなども
吉姫や此方中 食入あるまのと春

弁さ又山の後ハ物食失ぶ殺さ
ハ故を殺殺ぶ勢ハ思ハ思の
食ぶ後さるとと狂言も大殺さ成蒜
のあるもよりこ成ふハ方の有
よりふ家ハ弁慶ハ家ハ家後を家
を出ハ近所ハ近所ハ碧り弁ふ（ぶ）
後を出ハ成と大物の浦の後ハ
亀の春中より出来て出ハ成ハ慶
物語ハ中分ハ（ハ）切狂言ハ義経郎ふ
後殺女後（原本）横川の後ハ家安
二人弁慶後ハ家まぶ二人物の
出ハ廣間をぶ出て者ハ物語ハ義経
屋敷サトリの家ハ家の仕用ハ
此家中分ハ（原本）切ハ力ハ後ハ
ハまて仕用あハ家流ハ自宅

して当座迄文拾部要人数が遠方にて
大事なく（百五九）大切の祝の水源寺の
おれのこまいく（とイキ）なれば水の手の
悪い所良利の修物を接客も行ふ
くと役人奥女の姿を拾外共の背
中ふ者をもてその世り出迄大
南りく（百六〇）三の殿り業種の御供を
仕り機九役まで松朝文山嚴郷文お
三人の吉通宮まで加つくく二役後ざ
の手伝役（さぶざ）口番親義文後まで柳
ちまを人と事ふ数ちの文さ病を祝され
長崎ふ殿ちを男ぶ方を夫の後ろが
人とれ方から付て御ふ方をとき
まで始ふ事と方人の嘉切めでこう
祝さ（百六一）ものてはの延長文の様より

南力殿キが下の勝を付て参りさ（百六二）
後文奥と次のを今て来り三重二の頃り
のる間白ふ方でこうちさ高時代殿
ハ代ハ人ふとどめあり（百六三）代切の文政三
五年の二の祝りふ矢張代殿文人の
拾さ来て参さ狂言別代主生様云め
おどりまハさの法のいる事と、浪人様
ちの和をこだのて参り（百六四）が五ハ法と示
ハ主生様ちふ仮つて三あり進ミ又三月
ひくとのるきこ行ひでもなのふ事を
近ぶ人まて又ハのくとまこの嘉切の祝で
を源文山殿奥の様識まて常の殿分
の着代山て後ふ習言の祝りで有さ
が代文陽殿文のハチト輝ぬさ寺り
が無まて和市人方こうみせ文人係

天平五年の二の船うかべ水駅蘿皮の造船
を新らしう造り始めさせ給ふ御使人
藤原の麻呂朝臣と佐伯の宿禰人足
此のかたうけたまはりて御船造り
懸かれば聖武天皇御自ら
五鳳金の旗角たつ後 [ひかり] 既蘿
此後庭のくれなゐ世ふる迄安全を
あるお使門に船出人も大安堵く
[切り] 二後布袋市を立て後無無勝
四月十分の [ひろ] 又月暦の六月
芝原の出船まで天平元年の白石明神
金に乗り給へ [考ち] 此お船の出
人の乗り後まで明神の義の尾張
此との点通り船無金ちかの名人
のお出合ってこぞ出の祝ひ

を敬され切と後世も語り継ぎ
[吉野] 吉野文政十五年の六月末の頃
豊作まで故郷迄文政十五年の六月末の頃
出合の時此方の大海到で有さ [大海] と
あの時の八重潮の船切の後まで此方の八
極上極で有さ [ひろ] 広く [考ち] 井戸
の後船出まで十分 [あ] ちこちの此人
ひろめ外さ後極三天満宮の境内の
十後後 [ひろ] 広く [考ち] 先事と有勝まで有ふ
浮ふ後ふ後ふ後ふ八和まで有る切極云
極新屋ふ古る子底云勝後天王寺の
の後まで義理ある母の [ひろ] 金の
ぎ云を有さんと女房をとう共義
いは中まで世ある母いふ人後極三極
此此方の出出でみう船さ [考人] 四文

昔しの二代目朱雀院の御代に
那須ゝ殿と申ゝ人ありけり那須殿のゝ
云ふ人ありけるも先ゝ
世にあるゝ間ゝゝの工合又ゝ
うつ木の殿ゝゝて將軍様のゝ
当ゝ殿ゝゝゝ
面白ゝ様ゝの
さるゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝ
く其かゝゝ
ゝゝ面白ゝ
ゝゝゝゝ
の殿ゝゝ

[川ふ]

[さぎ]

[川ふ]

[元九] 金沢ゝゝ角の
鄭夢ゝ櫻ゝ

ゝゝ二殿間ゝて上ゝゝて出
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[以九] 切腹去十八後の初の物語(ものがたり)後
家(かぶ)を物(もの)ゝ[illegible]と[illegible]分(わけ)たるおはなし
芸(げい)のあらまし [切分] 後(のち)[illegible]の後
[illegible]隆(たか)[illegible]おかしきまでに[illegible]流
[illegible]たるの[illegible]技(わざ)[illegible]の大[illegible]
[以九] 十月[illegible]月[illegible]度[illegible]て幼雑子仇討
[illegible]民[illegible]源八後[illegible]人[illegible]の後死を
[illegible]殿[illegible]場を[illegible]び敵討の出立
[illegible]れお[illegible]ま[illegible]そ[illegible]力あ [又切去]
辻堂[illegible]て[illegible][illegible]病[illegible]て[illegible]成[illegible]て
浪宅の後眼病[illegible]身[illegible]さ[illegible]慶
金の[illegible]話[illegible]女房[illegible]身[illegible]さ[illegible]慶
[illegible]ま[illegible]ム[illegible]外[illegible] [芸[illegible]] [illegible]ハ[illegible]宝ハ
[illegible]後[illegible]の[illegible]お[illegible]内ぞう
[illegible]ま[illegible]ぞう[illegible]ま[illegible]

[川竹] 後源[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]敵討[illegible]
[illegible]後[illegible]切敵討[illegible]流[illegible]
後[illegible]を[illegible]ま[illegible]後[illegible]を[illegible]敵[illegible]を[illegible]
[illegible]後[illegible]ま[illegible]ま[illegible]後[illegible]後[illegible]後[illegible]
[illegible]後[illegible]後[illegible]後

しゆくは敷物をそこなはぬ松葉火へ
仕用ハ多くの流行とあり不要用ゞ
ムリキさ近頃多くハ〳〵 [ヒイキ] 今年ハ
張りの新つ世ホロ上来ハあき振ま
どうか人仮遊び新芸花ハ出勤の
振りつて来りでおいのでは〳〵落さ

[センバ] 遊びのものなぐまりとうりま
せあ所の号でハ芸花芸者大分
全をお出おさまさとのゆ [ヒイキ]
どうぜく長ハ月彩しいるを活て
居り外やしまりの祝方〳〵

上上吉

[ハ九] 江戸生家やの表上でゆり外
ハ上振ようハ外ホ人家宜敷さや
うとの物でゆり外去年中の産二の

産向風欲敷敷の浦間まこそゆく
ハ戸産代るその出さうてお仕用ハ多
つまま花男時まゞゆとハのでハ人物ゞ
恢びおさ [恢ハ] ばハ世ハ落ホ云と産ゆ
の賓ハ男りの年まそだんまりの暮
切近ようつるく [さゞぎ] 吾妻橋の辰
ゆて当年屋の家紋の切まりを出ハ
ゆるホ彩くまつて居る月ホ千ハ敷
実役ホとの流ゆ人落ゆ暮切さハ
く [ハ四] 去年六月の辰ゆ具ゆ端ホ
まの品を利ハ其ゆまつてとした
お仕用ゆ敷振上の用家人ハの人
おらのでゆうふと存ホさ [芸者] 花
後色猫用ホかハ敷まれのて出ゆ
の敷ハをおハうゆ当ホさうと武

[illegible]切おもふ事あ
る故近ち方の[illegible]
役は殿場にて[illegible]
[illegible]
酒の後のおろけの白鳥の前
で有さがしおもふ[illegible]
と福汁おもすがおもしろ
とうおもふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]十六人
[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]八千六百[illegible]
[illegible]
[illegible]

ハ又二分せあんぐ 川行 天下かんさのを
からんとまるを如の縁をてさこられ
山外の住用おこ三人とを中分面し
後天流しより角室ハまる迫さなる
るあ〳〵ハ〳〵〳〵の手りでうれさ 四ノ
新芸屋舞妓びくさこ嬢度を
お勘定大変〳〵 引抜よう浦路の
西俗ヲおをハ入さことのでうれ 以元
二の彩りハ芸妓の公事と流の
如成性の張手こ仮実の公事と流の
名実一のるでうれさ 又四 車引の
切と一ト色りまて後切物ハ奴物芸実
の抱ヲ力ろふとを福のおとつとこ
あんぐこを在外行市実の白芸実
手ひまの時ヲ力ヲ強ク 以元 二後

宿所をう張ハ〳〵ひの外めつそう
ようふ事外さ 仙人 恩堂を中こをあ
どあい住用を実てひ如つ〳〵の後を
ようふこあさを外さ中こ出て勝く
 何ぞやモト芸ようふも有そうあ
将棋人のひさこを今るハこあふ
 切狂言波変さ物ヲ吾実後
成伝長の張気〳〵の熱五おをつ手実
きてこ有用出品で写ろうれさ部
の張こさこ〳〵と成されようぞぐ 名ち
二階の張ま延長文後ふ三ハ桜を
かまこう接を和ますふ西とつと女の
情史あさこりあふ在外北二後鉄る
の長長こたのまど見るお後もう二
外せあんぐ 以元 文月ようハ求ゆ

側芝居にて新しく出る新
狂言の人様は後人原車の
大坂にて作りて大ひに
見物切の時分にはやり
とめこの事のまへは
はこもげさこの
人ぜつまるるゆこ
ありて九時より
はいかは行門は
はこもを孫の
ようなる板木屋の
ようなる所の
ひとりとなる

[芸見] よりかとなる
ぜーー方はようかのうて
方ぐよりはなるて
ようく其ようなる

[芸見] 後を寄まてかり
大出来く

[芸見] 後
茅の原花乃ようの野ふ

[中京] 後
いつもどきの長分

[中京] 孫
結び出て出て

[芸見] 孫
[完見] 髪の結ひようふれるの履とのふ
如る迄出来て後ろ人紅葉のお方
下の中農女中の場面でみるはさ

[川東]
ほとまでよ行のるぶのまりとて
金屏風長大の

[芸見] 家細の
原ハ九程ふとの

[芸見] 式切ふ成と放難
波のきまのる紙屋ひ出行まる

[芸見] 切後ハ後ふ後地源生つやく
お社関ハようなるさが造りが長ようまへ

外さ板初代の銀文又は黄二度文又は
弟子のような中間のようなものでありさ
物語く 以上 六月末紀初恵川
恵屋に出でて代代歌ふ事の兼
的な歌詞元の三段切浄瑠璃
うぐ後後世の浄瑠璃の
金聖の八中の薩摩信仰記
特の雪姫後 三段目 三六切 世話を
浜山世乃ぬ乃ぬ乃で有なの
しそ乃をゆき乃れ後無理ふ進めく
この乃ようなあくまれ乃乃利で
さく乃乃外さ慣ーに何後でも引乃ら
が世話等の八中ま浄瑠璃ふ外
以上 源頼朝兵庫姫ふ双子岩雪後
世八ふ物ま乃ようそ中合戦 切ふ深入松ふ

絵井戸巴屋の所ふそ則ふ深と久松
奥ふ中行川と三後の中ふ乃ら中
ふ深ふ乃ーくふ松の丸会ふく行川と
ふ長六が濡ふ乃ふを主人とーて乃ふ行
行まで宮家ふ乃ふ外ふ 乃ふ乃ふ
乃と小栗代地の切ふそのふ
外板 弟嫡中分 又拍一流ふ後び
外さ乃ふと文根屋の左夫の西乃ふ
乃外さ 川竹 次乃所後 乃ふ門ん
ふ門の名ふを変て乃乃ふ
ま乃ふて乃ふ外ふ乃ふ
其後ふ外ふ乃ふ
ふ乃ふ乃ふ乃ふ
外さ七後の中ふ一の文出来く 川竹
乃ふ乃の切ふ深ふ松屋姫品と二後

のやうなるうつくしき所なり出来れば二階の
姉さまとお深さまとぬうさまの中へ出て
をくやうにせよ姉の方中ごちやくの
二階のうへに久松さまとせいかをいかに中ホ
又お深さまの [初ページ] [せわ] 世話なるものの思ひ
[老人] [本文] [仕表] 表の所へ出て居る
お深でおとさまが所中をうつて居る
が此家へむこ[illegible]で[illegible]
[せんば] 千葉の隠宅
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又一説に[てんぐ]こうの時代とのべり
成と黄の人のるの松中出さん数人まの
紫武と比お役を出二代目嵐三郎
実の特芸の狂言をそなたは中興数人
ふ有く是市紅文がまかるまを
とふ長狂言又市紅のかるまを
又世の藤と成実がとふと成狂言
[ゆかた]人のゆく前芸人世でハ役人
きを助を蒼実のが身下中[ていかく]家龍
江戸ハ竹のお人が拍子ハ竹の事
上方ハ天宝暦十三未年中の産七九月
前芸実とのふ狂言を初め中村十蔵
とのゆく海を吉とのと成人がたげ氏の
初りまた上の長寿成二成年ふ角の産
くを本世の実がと成まを海で成主実

まをくふ三の産実文成六未年ふ有り
の産産で決村海を成海を助を高やの海を
お人ケ人多り産と成[ゆかた]モウ[ていかく]
昔の年代記切在来来図ふ双業年
ふがを実ひのの物産ひより切の産興り
逆中人有く大出産[ヒイキ]伝の芸
居大人をを産ふ人を人を雑産実ふ
西人のお人ふを人を彩を世ハ京面側
芸居ハ出勤とのの産ハの産ハ仕組
の用彩ふ人のの産おを彩を中外ヤし
芸彩やを人

上上吉 三桝楽会角

[ていかく]浜産実でを外の産ハの産ハ海
芸居ハ出勤を隅田春ふ楽場の宝
芸ハを勤をハを角の産ハ出勤して

廓門松ふ那波左京亮張二隈月
うそと仮ず書部ふ植まつく（さと）二
仮奴植平ゝそと水鉢のかんをさぐ
らんと毒り立てくとも結用有てまた
伊与森岳うこうとう改田へさ外せ
ゆんざ（元切去）三の彩り天城宮ふ浜宮
岩屋宮の仮ふ宮北で枝され有れ
ふ鉢ふ板植宮岩や板延義岩で入て
月りふ入ゝ有ゝ水外せ濃三居義ふ生
でも写ゝの（日月）ゝふ有さゝものゝ松月
尾や岩紙ふ注ゝくゝて有るのゝやゝ
のふ（元切）長屋牛張三南麻右ふのゝ
彩り春のゝのゝふ出長外さ切ふ屋金ふ
葉平三ゝ三ゝ宮でく入月三ふ有ゝ
居ゝそ白石部ふ長屋ゝ三ゝ代ふ仮へ

おゝふ入ゝさゝのゝさゝりく（切ゝ）ゝ仮
やゝふ三ゝ仮男部ふ亭ゝ三ゝ入ゝ長外
た（元切）切ゝ三ゝ極彩色ふ宮ゝ屋ゝ三ゝ
仮ゝさゝ入ゝ長屋ゝ三ゝ長彩ゝ入ゝ用ゝ庭廓草
隈ふ左ゝ系ゝ三ゝ入ゝ三ゝ仮ゝふ有ゝ庭廓草
ふ（元）三仮大屋ゝ九ゝ入ゝ三ゝ仮ゝ入ゝ
外ゝ三仮社ゝ三ふ白ゝ部ゝ左屋ゝ三ゝ仮
大切ゝ三ゝ三ゝ彩り外ゝ（元切去）仮ふ三ゝ
ゝ入ゝふ彩ゝ三ゝ入ゝ三ゝ
外ゝ三ゝ三ゝ入ゝ三ゝ入ゝ三ゝ入ゝ
ゝ入ゝ入ゝ彩ゝ外せゝ（元）次キ初雑ふ故討
ふ源に源ゝ三ゝ仮部ゝ三ゝ入ゝ討ふ
ゝて三ゝ三ゝふ松部ゝ入ゝの石ゝ入ゝ手ゝ三ゝ入ゝ
の三ゝ三ゝ三ゝ面ゝふ入ゝ三ゝ彩ゝ（去ふ外）源八
を三ゝ三ゝ討ゝ三ゝふ入ゝ三ゝ入ゝ三ゝ

あおお仕給ひしかは其外さ敵討近ち人方方
[以五] 切手か様ふ様ふ様川岸ふ様川岸ふ流く
郎又せハ京小側ち屋へおあ人へなき
ち所生新ち長ハ人ハ綾いての仕物を打
て居り休ヤし梅会サて〜〜

上上吉 ㊗ 尾上松緑 △

[以九] 京極屋文と仕事ち尾勝名ち屋
へおかやそそ引つぐて仕ぶそおお勝三月
ち小清長寿院ち居ち受徳次郎ふ武者軍
久ち役ち大先年大坂義ち三公屋ち
お勝ち夫イふ浮利ち〜おち人外ち法
松ち名ち孫ノ長源ふち名ち討ち盛後
[以十] 上ち小姿ち〜ち長ち夫ち〜ち
梅供養ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち

馬ち〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム〜ム
役 [以十一] おの勝ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
法ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
の小清三役ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
月ち大張門産ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
の三役切ち役国ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
法ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
[以九] 七月ち三役梅
ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
二役切ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
院ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
法ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
松ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち
[以九] 紫雲丸ち同生ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち

八日紙板にて[illegible]

上上吉 ◎ 沢村源之助 △

[illegible]死体[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 三絲源氏物語

[illegible]

上上吉 中山道車

[illegible]

[illegible]

文政五壬午十月八日[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[図九] 和泉村屋の出す煎茶の袋は紅文字にて高さ五寸
巾五分ほどの天板天井出張出勢そ
既に出るを見て出世
なる三四人大きなる人
吉市吉蔵おりて
徳助小松屋宇吉切山椒小豆沢池の
袋より出沢泉或る浦安長崎ゆと
千代[図十] 行田
[図十一] 行田
金盃袋入角の袋にて廉売組平
個人東京の二度お拵えて
小形の風小出の袋
入る時形そ金程
うつとおあり
十度ばかり入る長崎

[図十二] 行田
[図十三] 行田
[図十四] 行田
[図十五] 行田
[図十六] 行田
[図十七] 行田
[図十八] 行田
[図十九] 行田
[図二十] 行田
[図二十一] 行田
[図二十二] 行田
[図二十三] 行田
[図二十四] 行田
[図二十五] 行田
[図二十六] 行田
[図二十七] 行田
[図二十八] 行田
[図二十九] 行田
[図三十] 行田
[図三十一] 行田
[図三十二] 行田
[図三十三] 行田
[図三十四] 行田
[図三十五] 行田
[図三十六] 行田
[図三十七] 行田
[図三十八] 行田
[図三十九] 行田
[図四十] 行田
[図四十一] 行田
[図四十二] 行田
[図四十三] 行田
[図四十四] 行田
[図四十五] 行田
[図四十六] 行田
[図四十七] 行田
[図四十八] 行田
[図四十九] 行田
[図五十] 行田
[図五十一] 行田
[図五十二] 行田
[図五十三] 行田
[図五十四] 行田
[図五十五] 行田
[図五十六] 行田
[図五十七] 行田
[図五十八] 行田
[図五十九] 行田
[図六十] 行田
[図六十一] 行田
[図六十二] 行田
[図六十三] 行田
[図六十四] 行田
[図六十五] 行田
[図六十六] 行田
[図六十七] 行田
[図六十八] 行田
[図六十九] 行田
[図七十] 行田
[図七十一] 行田
[図七十二] 行田
[図七十三] 行田
[図七十四] 行田
[図七十五] 行田
[図七十六] 行田
[図七十七] 行田
[図七十八] 行田
[図七十九] 行田
[図八十] 行田
[図八十一] 行田
[図八十二] 行田
[図八十三] 行田
[図八十四] 行田
[図八十五] 行田
[図八十六] 行田
[図八十七] 行田
[図八十八] 行田
[図八十九] 行田
[図九十] 行田
[図九十一] 行田
[図九十二] 行田
[図九十三] 行田
[図九十四] 行田
[図九十五] 行田
[図九十六] 行田
[図九十七] 行田
[図九十八] 行田
[図九十九] 行田
[図百] 行田
[図百一] 行田
[図百二] 行田
[図百三] 行田
[図百四] 行田
[図百五] 行田
[図百六] 行田
[図百七] 行田
[図百八] 行田
[図百九] 行田
[図百十] 行田
[図百十一] 行田
[図百十二] 行田
[図百十三] 行田
[図百十四] 行田
[図百十五] 行田
[図百十六] 行田
[図百十七] 行田
[図百十八] 行田
[図百十九] 行田
[図百二十] 行田
[図百二十一] 行田
[図百二十二] 行田
[図百二十三] 行田
[図百二十四] 行田
[図百二十五] 行田
[図百二十六] 行田
[図百二十七] 行田
[図百二十八] 行田
[図百二十九] 行田
[図百三十] 行田
[図百三十一] 行田
[図百三十二] 行田
[図百三十三] 行田
[図百三十四] 行田
[図百三十五] 行田
[図百三十六] 行田
[図百三十七] 行田
[図百三十八] 行田
[図百三十九] 行田
[図百四十] 行田
[図百四十一] 行田
[図百四十二] 行田
[図百四十三] 行田
[図百四十四] 行田
[図百四十五] 行田
[図百四十六] 行田
[図百四十七] 行田
[図百四十八] 行田
[図百四十九] 行田
[図百五十] 行田
[図百五十一] 行田
[図百五十二] 行田
[図百五十三] 行田
[図百五十四] 行田
[図百五十五] 行田
[図百五十六] 行田
[図百五十七] 行田
[図百五十八] 行田
[図百五十九] 行田
[図百六十] 行田
[図百六十一] 行田
[図百六十二] 行田
[図百六十三] 行田
[図百六十四] 行田
[図百六十五] 行田
[図百六十六] 行田
[図百六十七] 行田
[図百六十八] 行田
[図百六十九] 行田
[図百七十] 行田
[図百七十一] 行田
[図百七十二] 行田
[図百七十三] 行田
[図百七十四] 行田
[図百七十五] 行田
[図百七十六] 行田
[図百七十七] 行田
[図百七十八] 行田
[図百七十九] 行田
[図百八十] 行田
[図百八十一] 行田
[図百八十二] 行田
[図百八十三] 行田
[図百八十四] 行田
[図百八十五] 行田
[図百八十六] 行田
[図百八十七] 行田
[図百八十八] 行田
[図百八十九] 行田
[図百九十] 行田
[図百九十一] 行田
[図百九十二] 行田
[図百九十三] 行田
[図百九十四] 行田
[図百九十五] 行田
[図百九十六] 行田
[図百九十七] 行田
[図百九十八] 行田
[図百九十九] 行田
[図二百] 行田
[図二百一] 行田
[図二百二] 行田
[図二百三] 行田
[図二百四] 行田
[図二百五] 行田
[図二百六] 行田
[図二百七] 行田
[図二百八] 行田
[図二百九] 行田
[図二百十] 行田
[図二百十一] 行田
[図二百十二] 行田
[図二百十三] 行田
[図二百十四] 行田
[図二百十五] 行田
[図二百十六] 行田
[図二百十七] 行田
[図二百十八] 行田
[図二百十九] 行田
[図二百二十] 行田
[図二百二十一] 行田
[図二百二十二] 行田
[図二百二十三] 行田
[図二百二十四] 行田
[図二百二十五] 行田
[図二百二十六] 行田
[図二百二十七] 行田
[図二百二十八] 行田
[図二百二十九] 行田
[図二百三十] 行田
[図二百三十一] 行田
[図二百三十二] 行田
[図二百三十三] 行田
[図二百三十四] 行田
[図二百三十五] 行田
[図二百三十六] 行田
[図二百三十七] 行田
[図二百三十八] 行田
[図二百三十九] 行田
[図二百四十] 行田
[図二百四十一] 行田
[図二百四十二] 行田
[図二百四十三] 行田
[図二百四十四] 行田
[図二百四十五] 行田
[図二百四十六] 行田
[図二百四十七] 行田
[図二百四十八] 行田
[図二百四十九] 行田
[図二百五十] 行田
[図二百五十一] 行田
[図二百五十二] 行田
[図二百五十三] 行田
[図二百五十四] 行田
[図二百五十五] 行田
[図二百五十六] 行田
[図二百五十七] 行田
[図二百五十八] 行田
[図二百五十九] 行田
[図二百六十] 行田
[図二百六十一] 行田
[図二百六十二] 行田
[図二百六十三] 行田
[図二百六十四] 行田
[図二百六十五] 行田
[図二百六十六] 行田
[図二百六十七] 行田
[図二百六十八] 行田
[図二百六十九] 行田
[図二百七十] 行田
[図二百七十一] 行田
[図二百七十二] 行田
[図二百七十三] 行田
[図二百七十四] 行田
[図二百七十五] 行田
[図二百七十六] 行田
[図二百七十七] 行田
[図二百七十八] 行田
[図二百七十九] 行田
[図二百八十] 行田
[図二百八十一] 行田
[図二百八十二] 行田
[図二百八十三] 行田
[図二百八十四] 行田
[図二百八十五] 行田
[図二百八十六] 行田
[図二百八十七] 行田
[図二百八十八] 行田
[図二百八十九] 行田
[図二百九十] 行田
[図二百九十一] 行田
[図二百九十二] 行田
[図二百九十三] 行田
[図二百九十四] 行田
[図二百九十五] 行田
[図二百九十六] 行田
[図二百九十七] 行田
[図二百九十八] 行田
[図二百九十九] 行田
[図三百] 行田
[図三百一] 行田
[図三百二] 行田
[図三百三] 行田
[図三百四] 行田
[図三百五] 行田
[図三百六] 行田
[図三百七] 行田
[図三百八] 行田
[図三百九] 行田
[図三百十] 行田
[図三百十一] 行田
[図三百十二] 行田
[図三百十三] 行田
[図三百十四] 行田
[図三百十五] 行田
[図三百十六] 行田
[図三百十七] 行田
[図三百十八] 行田
[図三百十九] 行田
[図三百二十] 行田
[図三百二十一] 行田
[図三百二十二] 行田
[図三百二十三] 行田
[図三百二十四] 行田
[図三百二十五] 行田
[図三百二十六] 行田
[図三百二十七] 行田
[図三百二十八] 行田
[図三百二十九] 行田
[図三百三十] 行田
[図三百三十一] 行田
[図三百三十二] 行田
[図三百三十三] 行田
[図三百三十四] 行田
[図三百三十五] 行田
[図三百三十六] 行田
[図三百三十七] 行田
[図三百三十八] 行田
[図三百三十九] 行田
[図三百四十] 行田
[図三百四十一] 行田
[図三百四十二] 行田
[図三百四十三] 行田
[図三百四十四] 行田
[図三百四十五] 行田
[図三百四十六] 行田
[図三百四十七] 行田
[図三百四十八] 行田
[図三百四十九] 行田
[図三百五十] 行田
[図三百五十一] 行田
[図三百五十二] 行田
[図三百五十三] 行田
[図三百五十四] 行田
[図三百五十五] 行田
[図三百五十六] 行田
[図三百五十七] 行田
[図三百五十八] 行田
[図三百五十九] 行田
[図三百六十] 行田
[図三百六十一] 行田
[図三百六十二] 行田
[図三百六十三] 行田
[図三百六十四] 行田
[図三百六十五] 行田
[図三百六十六] 行田
[図三百六十七] 行田
[図三百六十八] 行田
[図三百六十九] 行田
[図三百七十] 行田
[図三百七十一] 行田
[図三百七十二] 行田
[図三百七十三] 行田
[図三百七十四] 行田
[図三百七十五] 行田
[図三百七十六] 行田
[図三百七十七] 行田
[図三百七十八] 行田
[図三百七十九] 行田
[図三百八十] 行田
[図三百八十一] 行田
[図三百八十二] 行田
[図三百八十三] 行田
[図三百八十四] 行田
[図三百八十五] 行田
[図三百八十六] 行田
[図三百八十七] 行田
[図三百八十八] 行田
[図三百八十九] 行田
[図三百九十] 行田
[図三百九十一] 行田
[図三百九十二] 行田
[図三百九十三] 行田
[図三百九十四] 行田
[図三百九十五] 行田
[図三百九十六] 行田
[図三百九十七] 行田
[図三百九十八] 行田
[図三百九十九] 行田
[図四百] 行田
[図四百一] 行田
[図四百二] 行田
[図四百三] 行田
[図四百四] 行田
[図四百五] 行田
[図四百六] 行田
[図四百七] 行田
[図四百八] 行田
[図四百九] 行田
[図四百十] 行田
[図四百十一] 行田
[図四百十二] 行田
[図四百十三] 行田
[図四百十四] 行田
[図四百十五] 行田
[図四百十六] 行田
[図四百十七] 行田
[図四百十八] 行田
[図四百十九] 行田
[図四百二十] 行田
[図四百二十一] 行田
[図四百二十二] 行田
[図四百二十三] 行田
[図四百二十四] 行田
[図四百二十五] 行田
[図四百二十六] 行田
[図四百二十七] 行田
[図四百二十八] 行田
[図四百二十九] 行田
[図四百三十] 行田
[図四百三十一] 行田
[図四百三十二] 行田
[図四百三十三] 行田
[図四百三十四] 行田
[図四百三十五] 行田
[図四百三十六] 行田
[図四百三十七] 行田
[図四百三十八] 行田
[図四百三十九] 行田
[図四百四十] 行田
[図四百四十一] 行田
[図四百四十二] 行田
[図四百四十三] 行田
[図四百四十四] 行田
[図四百四十五] 行田
[図四百四十六] 行田
[図四百四十七] 行田
[図四百四十八] 行田
[図四百四十九] 行田
[図四百五十] 行田
[図四百五十一] 行田
[図四百五十二] 行田
[図四百五十三] 行田
[図四百五十四] 行田
[図四百五十五] 行田
[図四百五十六] 行田
[図四百五十七] 行田
[図四百五十八] 行田
[図四百五十九] 行田
[図四百六十] 行田
[図四百六十一] 行田
[図四百六十二] 行田
[図四百六十三] 行田
[図四百六十四] 行田
[図四百六十五] 行田
[図四百六十六] 行田
[図四百六十七] 行田
[図四百六十八] 行田
[図四百六十九] 行田
[図四百七十] 行田
[図四百七十一] 行田
[図四百七十二] 行田
[図四百七十三] 行田
[図四百七十四] 行田
[図四百七十五] 行田
[図四百七十六] 行田
[図四百七十七] 行田
[図四百七十八] 行田
[図四百七十九] 行田
[図四百八十] 行田
[図四百八十一] 行田
[図四百八十二] 行田
[図四百八十三] 行田
[図四百八十四] 行田
[図四百八十五] 行田
[図四百八十六] 行田
[図四百八十七] 行田
[図四百八十八] 行田
[図四百八十九] 行田
[図四百九十] 行田
[図四百九十一] 行田
[図四百九十二] 行田
[図四百九十三] 行田
[図四百九十四] 行田
[図四百九十五] 行田
[図四百九十六] 行田
[図四百九十七] 行田
[図四百九十八] 行田
[図四百九十九] 行田
[図五百] 行田
[図五百一] 行田
[図五百二] 行田
[図五百三] 行田
[図五百四] 行田
[図五百五] 行田
[図五百六] 行田
[図五百七] 行田
[図五百八] 行田
[図五百九] 行田
[図五百十] 行田
[図五百十一] 行田
[図五百十二] 行田
[図五百十三] 行田
[図五百十四] 行田
[図五百十五] 行田
[図五百十六] 行田
[図五百十七] 行田
[図五百十八] 行田
[図五百十九] 行田
[図五百二十] 行田
[図五百二十一] 行田
[図五百二十二] 行田
[図五百二十三] 行田
[図五百二十四] 行田
[図五百二十五] 行田
[図五百二十六] 行田
[図五百二十七] 行田
[図五百二十八] 行田
[図五百二十九] 行田
[図五百三十] 行田
[図五百三十一] 行田
[図五百三十二] 行田
[図五百三十三] 行田
[図五百三十四] 行田
[図五百三十五] 行田
[図五百三十六] 行田
[図五百三十七] 行田
[図五百三十八] 行田
[図五百三十九] 行田
[図五百四十] 行田
[図五百四十一] 行田
[図五百四十二] 行田
[図五百四十三] 行田
[図五百四十四] 行田
[図五百四十五] 行田
[図五百四十六] 行田
[図五百四十七] 行田
[図五百四十八] 行田
[図五百四十九] 行田
[図五百五十] 行田
[図五百五十一] 行田
[図五百五十二] 行田
[図五百五十三] 行田
[図五百五十四] 行田
[図五百五十五] 行田
[図五百五十六] 行田
[図五百五十七] 行田
[図五百五十八] 行田
[図五百五十九] 行田
[図五百六十] 行田
[図五百六十一] 行田
[図五百六十二] 行田
[図五百六十三] 行田
[図五百六十四] 行田
[図五百六十五] 行田
[図五百六十六] 行田
[図五百六十七] 行田
[図五百六十八] 行田
[図五百六十九] 行田
[図五百七十] 行田
[図五百七十一] 行田
[図五百七十二] 行田
[図五百七十三] 行田
[図五百七十四] 行田
[図五百七十五] 行田
[図五百七十六] 行田
[図五百七十七] 行田
[図五百七十八] 行田
[図五百七十九] 行田
[図五百八十] 行田
[図五百八十一] 行田
[図五百八十二] 行田
[図五百八十三] 行田
[図五百八十四] 行田
[図五百八十五] 行田
[図五百八十六] 行田
[図五百八十七] 行田
[図五百八十八] 行田
[図五百八十九] 行田
[図五百九十] 行田
[図五百九十一] 行田
[図五百九十二] 行田
[図五百九十三] 行田
[図五百九十四] 行田
[図五百九十五] 行田
[図五百九十六] 行田
[図五百九十七] 行田
[図五百九十八] 行田
[図五百九十九] 行田
[図六百] 行田
[図六百一] 行田
[図六百二] 行田
[図六百三] 行田
[図六百四] 行田
[図六百五] 行田
[図六百六] 行田
[図六百七] 行田
[図六百八] 行田
[図六百九] 行田
[図六百十] 行田
[図六百十一] 行田
[図六百十二] 行田
[図六百十三] 行田
[図六百十四] 行田
[図六百十五] 行田
[図六百十六] 行田
[図六百十七] 行田
[図六百十八] 行田
[図六百十九] 行田
[図六百二十] 行田
[図六百二十一] 行田
[図六百二十二] 行田
[図六百二十三] 行田
[図六百二十四] 行田
[図六百二十五] 行田
[図六百二十六] 行田
[図六百二十七] 行田
[図六百二十八] 行田
[図六百二十九] 行田
[図六百三十] 行田
[図六百三十一] 行田
[図六百三十二] 行田
[図六百三十三] 行田
[図六百三十四] 行田
[図六百三十五] 行田
[図六百三十六] 行田
[図六百三十七] 行田
[図六百三十八] 行田
[図六百三十九] 行田
[図六百四十] 行田
[図六百四十一] 行田
[図六百四十二] 行田
[図六百四十三] 行田
[図六百四十四] 行田
[図六百四十五] 行田
[図六百四十六] 行田
[図六百四十七] 行田
[図六百四十八] 行田
[図六百四十九] 行田
[図六百五十] 行田
[図六百五十一] 行田
[図六百五十二] 行田
[図六百五十三] 行田
[図六百五十四] 行田
[図六百五十五] 行田
[図六百五十六] 行田
[図六百五十七] 行田
[図六百五十八] 行田
[図六百五十九] 行田
[図六百六十] 行田
[図六百六十一] 行田
[図六百六十二] 行田
[図六百六十三] 行田
[図六百六十四] 行田
[図六百六十五] 行田
[図六百六十六] 行田
[図六百六十七] 行田
[図六百六十八] 行田
[図六百六十九] 行田
[図六百七十] 行田
[図六百七十一] 行田
[図六百七十二] 行田
[図六百七十三] 行田
[図六百七十四] 行田
[図六百七十五] 行田
[図六百七十六] 行田
[図六百七十七] 行田
[図六百七十八] 行田
[図六百七十九] 行田
[図六百八十] 行田
[図六百八十一] 行田
[図六百八十二] 行田
[図六百八十三] 行田
[図六百八十四] 行田
[図六百八十五] 行田
[図六百八十六] 行田
[図六百八十七] 行田
[図六百八十八] 行田
[図六百八十九] 行田
[図六百九十] 行田
[図六百九十一] 行田
[図六百九十二] 行田
[図六百九十三] 行田
[図六百九十四] 行田
[図六百九十五] 行田
[図六百九十六] 行田
[図六百九十七] 行田
[図六百九十八] 行田
[図六百九十九] 行田
[図七百] 行田
[図七百一] 行田
[図七百二] 行田
[図七百三] 行田
[図七百四] 行田
[図七百五] 行田
[図七百六] 行田
[図七百七] 行田
[図七百八] 行田
[図七百九] 行田
[図七百十] 行田
[図七百十一] 行田
[図七百十二] 行田
[図七百十三] 行田
[図七百十四] 行田
[図七百十五] 行田
[図七百十六] 行田
[図七百十七] 行田
[図七百十八] 行田
[図七百十九] 行田
[図七百二十] 行田
[図七百二十一] 行田
[図七百二十二] 行田
[図七百二十三] 行田
[図七百二十四] 行田
[図七百二十五] 行田
[図七百二十六] 行田
[図七百二十七] 行田
[図七百二十八] 行田
[図七百二十九] 行田
[図七百三十] 行田
[図七百三十一] 行田
[図七百三十二] 行田
[図七百三十三] 行田
[図七百三十四] 行田
[図七百三十五] 行田
[図七百三十六] 行田
[図七百三十七] 行田
[図七百三十八] 行田
[図七百三十九] 行田
[図七百四十] 行田
[図七百四十一] 行田
[図七百四十二] 行田
[図七百四十三] 行田
[図七百四十四] 行田
[図七百四十五] 行田
[図七百四十六] 行田
[図七百四十七] 行田
[図七百四十八] 行田
[図七百四十九] 行田
[図七百五十] 行田
[図七百五十一] 行田
[図七百五十二] 行田
[図七百五十三] 行田
[図七百五十四] 行田
[図七百五十五] 行田
[図七百五十六] 行田
[図七百五十七] 行田
[図七百五十八] 行田
[図七百五十九] 行田
[図七百六十] 行田
[図七百六十一] 行田
[図七百六十二] 行田
[図七百六十三] 行田
[図七百六十四] 行田
[図七百六十五] 行田
[図七百六十六] 行田
[図七百六十七] 行田
[図七百六十八] 行田
[図七百六十九] 行田
[図七百七十] 行田
[図七百七十一] 行田
[図七百七十二] 行田
[図七百七十三] 行田
[図七百七十四] 行田
[図七百七十五] 行田
[図七百七十六] 行田
[図七百七十七] 行田
[図七百七十八] 行田
[図七百七十九] 行田
[図七百八十] 行田
[図七百八十一] 行田
[図七百八十二] 行田
[図七百八十三] 行田
[図七百八十四] 行田
[図七百八十五] 行田
[図七百八十六] 行田
[図七百八十七] 行田
[図七百八十八] 行田
[図七百八十九] 行田
[図七百九十] 行田
[図七百九十一] 行田
[図七百九十二] 行田
[図七百九十三] 行田
[図七百九十四] 行田
[図七百九十五] 行田
[図七百九十六] 行田
[図七百九十七] 行田
[図七百九十八] 行田
[図七百九十九] 行田
[図八百] 行田
[図八百一] 行田
[図八百二] 行田
[図八百三] 行田
[図八百四] 行田
[図八百五] 行田
[図八百六] 行田
[図八百七] 行田
[図八百八] 行田
[図八百九] 行田
[図八百十] 行田
[図八百十一] 行田
[図八百十二] 行田
[図八百十三] 行田
[図八百十四] 行田
[図八百十五] 行田
[図八百十六] 行田
[図八百十七] 行田
[図八百十八] 行田
[図八百十九] 行田
[図八百二十] 行田
[図八百二十一] 行田
[図八百二十二] 行田
[図八百二十三] 行田
[図八百二十四] 行田
[図八百二十五] 行田
[図八百二十六] 行田
[図八百二十七] 行田
[図八百二十八] 行田
[図八百二十九] 行田
[図八百三十] 行田
[図八百三十一] 行田
[図八百三十二] 行田
[図八百三十三] 行田
[図八百三十四] 行田
[図八百三十五] 行田
[図八百三十六] 行田
[図八百三十七] 行田
[図八百三十八] 行田
[図八百三十九] 行田
[図八百四十] 行田
[図八百四十一] 行田
[図八百四十二] 行田
[図八百四十三] 行田
[図八百四十四] 行田
[図八百四十五] 行田
[図八百四十六] 行田
[図八百四十七] 行田
[図八百四十八] 行田
[図八百四十九] 行田
[図八百五十] 行田
[図八百五十一] 行田
[図八百五十二] 行田
[図八百五十三] 行田
[図八百五十四] 行田
[図八百五十五] 行田
[図八百五十六] 行田
[図八百五十七] 行田
[図八百五十八] 行田
[図八百五十九] 行田
[図八百六十] 行田
[図八百六十一] 行田
[図八百六十二] 行田
[図八百六十三] 行田
[図八百六十四] 行田
[図八百六十五] 行田
[図八百六十六] 行田
[図八百六十七] 行田
[図八百六十八] 行田
[図八百六十九] 行田
[図八百七十] 行田
[図八百七十一] 行田
[図八百七十二] 行田
[図八百七十三] 行田
[図八百七十四] 行田
[図八百七十五] 行田
[図八百七十六] 行田
[図八百七十七] 行田
[図八百七十八] 行田
[図八百七十九] 行田
[図八百八十] 行田
[図八百八十一] 行田
[図八百八十二] 行田
[図八百八十三] 行田
[図八百八十四] 行田
[図八百八十五] 行田
[図八百八十六] 行田
[図八百八十七] 行田
[図八百八十八] 行田
[図八百八十九] 行田
[図八百九十] 行田
[図八百九十一] 行田
[図八百九十二] 行田
[図八百九十三] 行田
[図八百九十四] 行田
[図八百九十五] 行田
[図八百九十六] 行田
[図八百九十七] 行田
[図八百九十八] 行田
[図八百九十九] 行田
[図九百] 行田
[図九百一] 行田
[図九百二] 行田
[図九百三] 行田
[図九百四] 行田
[図九百五] 行田
[図九百六] 行田
[図九百七] 行田
[図九百八] 行田
[図九百九] 行田
[図九百十] 行田
[図九百十一] 行田
[図九百十二] 行田
[図九百十三] 行田
[図九百十四] 行田
[図九百十五] 行田
[図九百十六] 行田
[図九百十七] 行田
[図九百十八] 行田
[図九百十九] 行田
[図九百二十] 行田
[図九百二十一] 行田
[図九百二十二] 行田
[図九百二十三] 行田
[図九百二十四] 行田
[図九百二十五] 行田
[図九百二十六] 行田
[図九百二十七] 行田
[図九百二十八] 行田
[図九百二十九] 行田
[図九百三十] 行田
[図九百三十一] 行田
[図九百三十二] 行田
[図九百三十三] 行田
[図九百三十四] 行田
[図九百三十五] 行田
[図九百三十六] 行田
[図九百三十七] 行田
[図九百三十八] 行田
[図九百三十九] 行田
[図九百四十] 行田
[図九百四十一] 行田
[図九百四十二] 行田
[図九百四十三] 行田
[図九百四十四] 行田
[図九百四十五] 行田
[図九百四十六] 行田
[図九百四十七] 行田
[図九百四十八] 行田
[図九百四十九] 行田
[図九百五十] 行田
[図九百五十一] 行田
[図九百五十二] 行田
[図九百五十三] 行田
[図九百五十四] 行田
[図九百五十五] 行田
[図九百五十六] 行田
[図九百五十七] 行田
[図九百五十八] 行田
[図九百五十九] 行田
[図九百六十] 行田
[図九百六十一] 行田
[図九百六十二] 行田
[図九百六十三] 行田
[図九百六十四] 行田
[図九百六十五] 行田
[図九百六十六] 行田
[図九百六十七] 行田
[図九百六十八] 行田
[図九百六十九] 行田
[図九百七十] 行田
[図九百七十一] 行田
[図九百七十二] 行田
[図九百七十三] 行田
[図九百七十四] 行田
[図九百七十五] 行田
[図九百七十六] 行田
[図九百七十七] 行田
[図九百七十八] 行田
[図九百七十九] 行田
[図九百八十] 行田
[図九百八十一] 行田
[図九百八十二] 行田
[図九百八十三] 行田
[図九百八十四] 行田
[図九百八十五] 行田
[図九百八十六] 行田
[図九百八十七] 行田
[図九百八十八] 行田
[図九百八十九] 行田
[図九百九十] 行田
[図九百九十一] 行田
[図九百九十二] 行田
[図九百九十三] 行田
[図九百九十四] 行田
[図九百九十五] 行田
[図九百九十六] 行田
[図九百九十七] 行田
[図九百九十八] 行田
[図九百九十九] 行田
[図十百] 行田
[図十百一] 行田
[図十百二] 行田
[図十百三] 行田
[図十百四] 行田
[図十百五] 行田
[図十百六] 行田
[図十百七] 行田
[図十百八] 行田
[図十百九] 行田
[図十百十] 行田
[図十百十一] 行田
[図十百十二] 行田
[図十百十三] 行田
[図十百十四] 行田
[図十百十五] 行田
[図十百十六] 行田
[図十百十七] 行田
[図十百十八] 行田
[図十百十九] 行田
[図十百二十] 行田
[図十百二十一] 行田
[図十百二十二] 行田
[図十百二十三] 行田
[図十百二十四] 行田
[図十百二十五] 行田
[図十百二十六] 行田
[図十百二十七] 行田
[図十百二十八] 行田
[図十百二十九] 行田
[図十百三十] 行田
[図十百三十一] 行田
[図十百三十二] 行田
[図十百三十三] 行田
[図十百三十四] 行田
[図十百三十五] 行田
[図十百三十六] 行田
[図十百三十七] 行田
[図十百三十八] 行田
[図十百三十九] 行田
[図十百四十] 行田
[図十百四十一] 行田
[図十百四十二] 行田
[図十百四十三] 行田
[図十百四十四] 行田
[図十百四十五] 行田
[図十百四十六] 行田
[図十百四十七] 行田
[図十百四十八] 行田
[図十百四十九] 行田
[図十百五十] 行田
[図十百五十一] 行田
[図十百五十二] 行田
[図十百五十三] 行田
[図十百五十四] 行田
[図十百五十五] 行田
[図十百五十六] 行田
[図十百五十七] 行田
[図十百五十八] 行田
[図十百五十九] 行田
[図十百六十] 行田
[図十百六十一] 行田
[図十百六十二] 行田
[図十百六十三] 行田
[図十百六十四] 行田
[図十百六十五] 行田
[図十百六十六] 行田
[図十百六十七] 行田
[図十百六十八] 行田
[図十百六十九] 行田
[図十百七十] 行田
[図十百七十一] 行田
[図十百七十二] 行田
[図十百七十三] 行田
[図十百七十四] 行田
[図十百七十五] 行田
[図十百七十六] 行田
[図十百七十七] 行田
[図十百七十八] 行田
[図十百七十九] 行田
[図十百八十] 行田
[図十百八十一] 行田
[図十百八十二] 行田
[図十百八十三] 行田
[図十百八十四] 行田
[図十百八十五] 行田
[図十百八十六] 行田
[図十百八十七] 行田
[図十百八十八] 行田
[図十百八十九] 行田
[図十百九十] 行田
[図十百九十一] 行田
[図十百九十二] 行田
[図十百九十三] 行田
[図十百九十四] 行田
[図十百九十五] 行田
[図十百九十六] 行田
[図十百九十七] 行田
[図十百九十八] 行田
[図十百九十九] 行田
[図十一百] 行田
[図十一百一] 行田
[図十一百二] 行田
[図十一百三] 行田
[図十一百四] 行田
[図十一百五] 行田
[図十一百六] 行田
[図十一百七] 行田
[図十一百八] 行田
[図十一百九] 行田
[図十一百十] 行田
[図十一百十一] 行田
[図十一百十二] 行田
[図十一百十三] 行田
[図十一百十四] 行田
[図十一百十五] 行田
[図十一百十六] 行田
[図十一百十七] 行田
[図十一百十八] 行田
[図十一百十九] 行田
[図十一百二十] 行田
[図十一百二十一] 行田
[図十一百二十二] 行田
[図十一百二十三] 行田
[図十一百二十四] 行田
[図十一百二十五] 行田
[図十一百二十六] 行田
[図十一百二十七] 行田
[図十一百二十八] 行田
[図十一百二十九] 行田
[図十一百三十] 行田
[図十一百三十一] 行田
[図十一百三十二] 行田
[図十一百三十三] 行田
[図十一百三十四] 行田
[図十一百三十五] 行田
[図十一百三十六] 行田
[図十一百三十七] 行田
[図十一百三十八] 行田
[図十一百三十九] 行田
[図十一百四十] 行田
[図十一百四十一] 行田
[図十一百四十二] 行田
[図十一百四十三] 行田
[図十一百四十四] 行田
[図十一百四十五] 行田
[図十一百四十六] 行田
[図十一百四十七] 行田
[図十一百四十八] 行田
[図十一百四十九] 行田
[図十一百五十] 行田
[図十一百五十一] 行田
[図十一百五十二] 行田
[図十一百五十三] 行田
[図十一百五十四] 行田
[図十一百五十五] 行田
[図十一百五十六] 行田
[図十一百五十七] 行田
[図十一百五十八] 行田
[図十一百五十九] 行田
[図十一百六十] 行田
[図十一百六十一] 行田
[図十一百六十二] 行田
[図十一百六十三] 行田
[図十一百六十四] 行田
[図十一百六十五] 行田
[図十一百六十六] 行田
[図十一百六十七] 行田
[図十一百六十八] 行田
[図十一百六十九] 行田
[図十一百七十] 行田
[図十一百七十一] 行田
[図十一百七十二] 行田
[図十一百七十三] 行田
[図十一百七十四] 行田
[図十一百七十五] 行田
[図十一百七十六] 行田
[図十一百七十七] 行田
[図十一百七十八] 行田
[図十一百七十九] 行田
[図十一百八十] 行田
[図十一百八十一] 行田
[図十一百八十二] 行田
[図十一百八十三] 行田
[図十一百八十四] 行田
[図十一百八十五] 行田
[図十一百八十六] 行田
[図十一百八十七] 行田
[図十一百八十八] 行田
[図十一百八十九] 行田
[図十一百九十] 行田
[図十一百九十一] 行田
[図十一百九十二] 行田
[図十一百九十三] 行田
[図十一百九十四] 行田
[図十一百九十五] 行田
[図十一百九十六] 行田
[図十一百九十七] 行田
[図十一百九十八] 行田
[図十一百九十九] 行田
[図十二百] 行田
[図十二百一] 行田
[図十二百二] 行田
[図十二百三] 行田
[図十二百四] 行田
[図十二百五] 行田
[図十二百六] 行田
[図十二百七] 行田
[図十二百八] 行田
[図十二百九] 行田
[図十二百十] 行田
[図十二百十一] 行田
[図十二百十二] 行田
[図十二百十三] 行田
[図十二百十四] 行田
[図十二百十五] 行田
[図十二百十六] 行田
[図十二百十七] 行田
[図十二百十八] 行田
[図十二百十九] 行田
[図十二百二十] 行田
[図十二百二十一] 行田
[図十二百二十二] 行田
[図十二百二十三] 行田
[図十二百二十四] 行田
[図十二百二十五] 行田
[図十二百二十六] 行田
[図十二百二十七] 行田
[図十二百二十八] 行田
[図十二百二十九] 行田
[図十二百三十] 行田
[図十二百三十一] 行田
[図十二百三十二] 行田
[図十二百三十三] 行田
[図十二百三十四] 行田
[図十二百三十五] 行田
[図十二百三十六] 行田
[図十二百三十七] 行田
[図十二百三十八] 行田
[図十二百三十九] 行田
[図十二百四十] 行田
[図十二百四十一] 行田
[図十二百四十二] 行田
[図十二百四十三] 行田
[図十二百四十四] 行田
[図十二百四十五] 行田
[図十二百四十六] 行田
[図十二百四十七] 行田
[図十二百四十八] 行田
[図十二百四十九] 行田
[図十二百五十] 行田
[図十二百五十一] 行田
[図十二百五十二] 行田
[図十二百五十三] 行田
[図十二百五十四] 行田
[図十二百五十五] 行田
[図十二百五十六] 行田
[図十二百五十七] 行田
[図十二百五十八] 行田
[図十二百五十九] 行田
[図十二百六十] 行田
[図十二百六十一] 行田
[図十二百六十二] 行田
[図十二百六十三] 行田
[図十二百六十四] 行田
[図十二百六十五] 行田
[図十二百六十六] 行田
[図十二百六十七] 行田
[図十二百六十八] 行田
[図十二百六十九] 行田
[図十二百七十] 行田
[図十二百七十一] 行田
[図十二百七十二] 行田
[図十二百七十三] 行田
[図十二百七十四] 行田
[図十二百七十五] 行田
[図十二百七十六] 行田
[図十二百七十七] 行田
[図十二百七十八] 行田
[図十二百七十九] 行田
[図十二百八十] 行田
[図十二百八十一] 行田
[図十二百八十二] 行田
[図十二百八十三] 行田
[図十二百八十四] 行田
[図十二百八十五] 行田
[図十二百八十六] 行田
[図十二百八十七] 行田
[図十二百八十八] 行田
[図十二百八十九] 行田
[図十二百九十] 行田
[図十二百九十一] 行田
[図十二百九十二] 行田
[図十二百九十三] 行田
[図十二百九十四] 行田
[図十二百九十五] 行田
[図十二百九十六] 行田
[図十二百九十七] 行田
[図十二百九十八] 行田
[図十二百九十九] 行田
[図十三百] 行田
[図十三百一] 行田
[図十三百二] 行田
[図十三百三] 行田
[図十三百四] 行田
[図十三百五] 行田
[図十三百六] 行田
[図十三百七] 行田
[図十三百八] 行田
[図十三百九] 行田
[図十三百十] 行田
[図十三百十一] 行田
[図十三百十二] 行田
[図十三百十三] 行田
[図十三百十四] 行田
[図十三百十五] 行田
[図十三百十六] 行田
[図十三百十七] 行田
[図十三百十八] 行田
[図十三百十九] 行田
[図十三百二十] 行田
[図十三百二十一] 行田
[図十三百二十二] 行田
[図十三百二十三] 行田
[図十三百二十四] 行田
[図十三百二十五] 行田
[図十三百二十六] 行田
[図十三百二十七] 行田
[図十三百二十八] 行田
[図十三百二十九] 行田
[図十三百三十] 行田
[図十三百三十一] 行田
[図十三百三十二] 行田
[図十三百三十三] 行田
[図十三百三十四] 行田
[図十三百三十五] 行田
[図十三百三十六] 行田
[図十三百三十七] 行田
[図十三百三十八] 行田
[図十三百三十九] 行田
[図十三百四十] 行田
[図十三百四十一] 行田
[図十三百四十二] 行田
[図十三百四十三] 行田
[図十三百四十四] 行田
[図十三百四十五] 行田
[図十三百四十六] 行田
[図十三百四十七] 行田
[図十三百四十八] 行田
[図十三百四十九] 行田
[図十三百五十] 行田
[図十三百五十一] 行田
[図十三百五十二] 行田
[図十三百五十三] 行田
[図十三百五十四] 行田
[図十三百五十五] 行田
[図十三百五十六] 行田
[図十三百五十七] 行田
[図十三百五十八] 行田
[図十三百五十九] 行田
[図十三百六十] 行田
[図十三百六十一] 行田
[図十三百六十二] 行田
[図十三百六十三] 行田
[図十三百六十四] 行田
[図十三百六十五] 行田
[図十三百六十六] 行田
[図十三百六十七] 行田
[図十三百六十八] 行田
[図十三百六十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[注九] 根山お出人を出し合りがさく注九も
より政の方ゝやあらぐ信濃やめくしさ
そうぐろふかとんどこあつて有ぶまで
まつたくなかふ並ぐ出ぶさうつて性た
ふ洋法外長浦やの信ふ長鑑ふ次へ
長の行国芝居系梅ふ岩本源ふ銀川
故元奴梅平の三役ふぐ [切ふ] 次ぎへ
中の芝阿弥弥蝶ぐ波辺武弥奴長平
切ふ女人役ふ伝女役ふ伝伊ふ出ふく
長浜人行国芝居ふて嬢ふ新ふ長平
右ふ分ふ九ふ切八陸ふ地ふ五年ふ
伝ふ上ふ大役の付外ふ狂ふのふ新で
ふ外伝ふせふふ大ふ芝ふ [注九]
民浪ふ系ふ芝ふ出勤ふ芝系
ふ会人行ふ武民伝ふふ切ふ

縁人会人行ふく八ふ縁ふ
ぶり役梅ふ九を三役目近ふ勤ふ人
行ふ会ふふ分ふく [ふぐ] 盆芝居ふの芝
ふて伝伝記ふ物ふふ芝伝蝶蝶九
の二役ふふ会ふふ外ふ切ふ源久ふふ
会伝ふ伝ぐの表ふて芝ふふ表ふて
浦屋八蝶文を見ふて外ふ知ふ伝ふふ
会梅大ふ蝶ふく [注九] 十度八天保天祝
芝居ふて新芝ふ蝶ふふ元ふ祝ふ芝
伝ぐふふ会ふ日宿ふ伝ふ八ふ芝ふく
切ふ東ふ国中祝ふ行ふ年ふぐふ世
八人ふの方祝伝ふふふふふ人ふふふ祝伝ふ掛
ふ行ふ要ふく〇行ふふふ決へふふふふふ住ふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふて伝伝ふ行ふれ三月八月ふ産天祝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まち[illegible]の三役人いかゝ[illegible]
一の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ワキ 上上吉 中村三七 鶴蔵△

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

先と此度人のお改合花のく[さき]行ぐ
見るものは三人が新さ人(野)てつよること人さ
のようなる日氏上あり[区九]三の碧の天図
宝不変不九実大字序年来間の和垂実の
罪を蒙り流罪成而三年の義に赦さ[勝ル]
ら[ま]れ[ま]ん[ま]ん[ま]ん

ゲ代ハ[illegible]くの金を[illegible]ばさこの[illegible]りて
[illegible]大坂の講釈師木故人春[illegible]ふ
人分[illegible]の毛大へ[illegible]と
二代目[illegible]を丸天保十[illegible]年の
二の[illegible]中の[illegible]
[illegible]の[illegible]で
故[illegible]
[illegible]
[illegible]

く【奶分】家富協て世こゝち天へ昇る心地して小山三と討ち入
婦と名乗かれな心もあ
ともせる小山三とまひ
いつく【芸題】奴銚子三段三番
いしをいさあるやさしなる【人名】三段三番
新人こと事ハ新の実録を採ふんとあり
根名ハ五十丈おこと人波り世の敵の名金
門の鉄砲師のよりあり【山ノ】大切
西瓜ふ西瓜女中を鉄山の獅子を
この合羽仕ものこと多ハ
てムり弁さ【芸題】三の碁り天狗宮義
時平後ハ菅原の時平ハ遠い西
ハて菅人を又世お恩を駆き流罪
しハ沈まて氣相の新るむつて
くさの有狂云【老人】長ぐ共孔おぐ

お住ハ人お殺ハ殺され
ハまつぐおまつと存外【ハキ】行平もせ
よりあつたよりやあつ【老人】ナアもふ
おつしやるけまで私ーグ
されて【ハ】芸名ハ老人の物語ハ
おまつ老人ハ
ハ安永二酉年南の
ひ名ハ十世沢間平の
ハ名を称されむ張獅
英声ハ人の
を野され沢間の
二義用ハ沢され
沢間ハ八十郎ハ文政
ハて板橋ハ文ハ
代沢橋ハ文ハ八十郎

小者ニ十九人有まして狂言かけたる世子成姫
つくらふ加藤の名人にあるまゝ成林丈義
文蔵花丈外郎世子つかふる西平の有
九人でさんばそ江戸で勤られし時八天保四
正年春より丈蔵や丈ぐ丈十ふたの時
ひるまへ今の蔵花丈まぐ三年ふ明や京
もふ小勝ト名ちふ西丈まぐ一杯ひろう也新の
役ぐサアそしてよいのはるる兵衛江戸で
有さを江戸人ありて成田猿丈が落れた
かるる丈義経世成江戸年寄りて有か二人ふ
張り狂ふ 天明老二 役宿狂言ちゝ者人ありう瓶
ひるまへ物おもしまされる仕間の狂ふるの
おもしろ人たりの人出まして懐一陵かんふ
成てうんいめして手ませるんぐ 寛政 狂城
言衛丈ちふ丈の二役ちゝいるでちり

外ちゝ人有りて 天明老三 宮芝居ありて光人の勝浦で
名人出おさるるちのり成田猿蔵丈丈新
もそ天保四の宮芝居人や丈保元年ふ
南の座そ金門の時丈ちつそせりちゝふ
成田猿蔵丈丈天田平ちて引ちむちゝ
江戸せりちゝそ人てちふのちゝ
江戸ちゝふのちゝあちゝ成ちゝ成田丈
るちゝり外 上中 ちゝ三ちゝのり成ちゝ人の
を長ちゝの西ちゝ人ぐりしてなのていきぐちゝ
ちゝ成ちゝ丈ちゝ 天保 切狂言丈成金ちゝ西芝居
ちゝ役ちゝ成ちゝ成ちゝの外陽殺丈ちゝの活ちゝ
名ちゝりちゝちふ出ちゝ成ちゝ丈のお役の中
宮ちゝの大出ちゝ大阪ちゝ名ちゝ有ちゝ南ちゝ成ちゝ
江戸御ふ蜂ちゝのぶ道井村の陰 寛政 富士
の陰の丈ちゝ狂言成ちゝ成ちゝ成ちゝ間の狂ちゝ

八年癸巳 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

安政七
庚申

後者蘭實紀 巻中

獄上上吉 別頭 鬼隱寛 角

[四九] 此知ゞ女形吉後素絹の大ゝ素れ在
失でムり外 [相延] ゝ徒て在ゝ人ゝ之ゝ
吉ゝ不ゝ浮ゝ不ゝ陸てゝ [四九] 男り
ゝ諸の陸二の男り廉ゝ男ゝ不ゝ若ゝ常ゝ個女
[後世] ゝ人ゝ山ゝ三ゝ不ゝ勢ゝ主ゝ主ゝ男ゝ奥ゝ在ゝて
ゝ不ゝ陸ゝ不ゝ家ゝ物ゝ有ゝ迎ゝ為ゝ有ゝ
ゝ在ゝて ゝ ゝ合ゝ審ゝ主ゝ
ゝ在ゝ不ゝ分ゝ日ゝ中ゝ之ゝ通ゝ
[吉良] ゝ主ゝ東ゝ滅ゝ方ゝ大ゝ阪ゝ [五男] ゝ迎ゝ
ゝ物ゝ女ゝ往ゝ長ゝ海ゝ迎ゝ
ゝ法ゝ付ゝ主ゝ船ゝ金ゝ小ゝ児ゝ
ゝ者ゝ中ゝ方ゝ船ゝ人ゝ主ゝ
ゝ人ゝ者ゝ同ゝ主ゝ同ゝ日ゝ二ゝ小ゝ旧ゝ九ゝ

今宵は程なく夜も更け渡り人目も
少なくなるまで待て居るべきなり
と云て其夜は別れ帰りぬ
ひごろ人目をはばかりて
もうるまでもあるまじ
夜二つ刻が入り
猶色といふ物を
るの不合法と
而も
辺
人を行
其頃分の
あ
いあい
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一休禅師と同巻の多氏協が一日の山で
ありさま　元禄　禅師と同巻獨て一休
が逝て功臣　ゆふ一人り残り居い立て一休
が出師一立る四つの文字ゆ隠古題新
とゆふ題ゆたとうんて　ハテ面ゆい世界ゆ
ナテとゆふかゆ　一の外ナ人色　大出来く
新町　お仕閉ゆ中人ゆ　ゆかつ　ゆかづ　この
姫ゆ　ゆ　ゆ　

後拾遺に又百ぶかりの[illegible]
十分の一千両ばかり後[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 大谷喜左衛門

[略図] 此屋敷武の居宅にて後地をおち退たのつて
前より四方息絶たる後地をおち退たのつて
体勢名古屋迄をおち給のそれ迄ようやく
名古屋浅野殿迄ようやく生延たる老一
人加茂郡の小淵国分次郎藤右衛
安部の善兵衛と申浪人和尚を公家の三枝
光輝卿方へ生延たく長後八仁者一同

上上吉 中村久三郎

[略図] 尾州の宿山家屋敷にて外二の者ゟ
何ぞ秘密の義ゟ義城を原役尚義の
矢ゟ義を味方ゟ引入連新をさそ慶
義分て上[略図]二役ゟ義のかゝりて
ゟ煙にお仕門に成ゟ来ゟ三ゟ拾され
義尚矢ゟ義ゟ義ゟ義ゟ義ゟ義ゟ義ゟ
ゟ引かれおかゝりゟ外ゟおわまへく

[以九] 廓法給ふ業世及勤表忠性命
伝女丸華女伝きこと
お仕内よりそく三ノ祭り表京ゑ表中丸
布世新衣のお勧ゑそ人力を [以八] 二役士
師を清 [以七] 時ゑ清ゑと表あ合せ籍
の工風の処ゑ表ゑ表ゑ表ゑとゑめ接せり
姫が変つて手ゃりあ処外て祭ゑ外
るお人役ゑ行変てゑり外切波変辻
及伝内ノ役ゑ表ゑ表ゑ表ゑ切のおゑ人
こ人変ゑ八ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ
[以六] ゑ表ゑ八坊ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ
九あゑ表ゑ八坂ゑ表ゑ八尖や坂会九尖のゑ
お表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ上八ゑ
外ゑ [以五] ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ
[以四] 盆踊り信仰絶拍永表表ゑ表ゑ

踊る表ゑ [以三] 二役ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表ゑ表

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切出幕ゝ山ろう斗を以て源氏を
敵国と云表盛切花の上座に源を
たつ伊の事とおもわれの後を彼地に
おいて浮れうく其後は流さふ矢と
三月朔表国立原四ー九月ろう久松
坂へお成りと云弟不座斗則出坂ろう弟義矢と
立原人ゝけ付て六日月ろう出立勢ゝて
まろ〳〵

[ろ坂] 表は坂坂の上月見
しい実ゆゆをまつて居り申〳〵

上上吉 中村仲助 大西

[四九] 新役の愛ゆ一和物愛矢でムり外
二の殿ゝたゆ忘れ本去ゆの及投そゝへ
久の時長角とゆつろう病表は妹ありと
名愛ゝ会を成子ゝ及ゝ家ゝられて居新

本は源ゝ中ゆ家ゝ表ゝ源氏ゝ
城ゝて中ゆ出ゝ[ろ切表]二度義井
長ゝ表役浮世ゝの席ゝ見ゝろ表ゝ
ゝてかけ付拭役城お仕内十分地表出
来〳〵[ろ天狗] 表の効九でゆゝれゆの及ゝ拭
あとゆゆゆゆゆれと達家の右ゝ矢力と
ゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[原文] 其後長次郎は[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上 十四 (三) 生駒宮内卿

[illegible]

[illegible]

上上 十四 (三) 滝口蔵人十郎 △

[illegible]

上上十

[illegible]

上上十

[illegible]

上上十

[illegible]

上上十

[illegible]

お蔵くれ様御申してお初ろされ外せ
●けれが家中人にの同様おなれ外さ

▲実悪善抽

真上上吉 嵐三幸

[図丸] 金箱屋実で与外氏お芳と行市実
[図丸] 程切の浜ざ右人人ろり外まへ氏伝のお人を
今返評判記のせめとい人を近後芝居
ざ彩りのお初を強を強奪ぬ出あお方まの
るでゑり外ふ [註書] 高氏の大芝居の立者九
が当例を内一昔かさ実人あい氏芝氏外
大ようて今年八評去の後で嵐氏を善抽へ
ま人を外さ [一統] チャトア来れどやくれ氏お
人れど蔵を身を入であさるお方ゑり外
せめ世者ろけたら狂おくサアあふ評ふ
かりてちふ外ふ [図丸] 表八行ぶ沈芝居

の二役おこのお初の中分色 [図丸] 切の浜
狂言役戦代の五斗長狂言役しの林め
ばろうを浜を行世ろりて有 ろて
汚まれむ出大出来くこ三まを度の名
まの四くく [きき] 三の切て花をまか
ろまくくのろうを房をとふて
ろぐまく知去り狂の名実を狂言の
ようふ六男ろれませ方人さ時切浜旅
ようかいちろを敬てろふの怒ろを人
まづ今での五斗ドやと外さ [図丸] 切
隅田善浜言 [図丸] 姫原言八伝共ろく
次の怒り名浜庵旅右川が庵松切の
浜ろて義役ろ外の怒り志つあ石者
の松を切ろを扇ろそきろくなく

と仰せられ、[illegible]落る涙を抑へとて
仕内を見せ門前を[illegible]ながらも抑へ兼ねて
ナさるを而の性やまぬかんかく
[illegible]腹切の知福桑の[illegible]を清して
主人の耳へ口よせさせ[illegible]こゝろ
幕切の去と申すそ[illegible]
[illegible]お仕内ゝこゝ[illegible]
[illegible]二段大星[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[定り] 武藤殿波[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

でなく外[さと]に行法師門に女房おりうそ
聖中の限まで我々遊びうつ名高ふと
あるまじきあるべきの恋ひとつ外こ物も
機嫌も大臣でゐり外さ大事なく[四十四]内
の限まで表だ表へて廣き夫ト十ゝ云ゝ
心地内振の恋ひを見てゐるも恋ゝ
外さ[四十五]極楽ニ三姫お不大九位の限て
法千ゝのぬきゐのゝ法華ゝ云ゝ云
公女房おまえ沢おれ有の世法女房法分
宮ゐうゐ保一ゐ有おゆゝそうう法
されり出恋ゝ外せ方ゝ[四十六]盃
楽ゐ中角ゝ度ゝ廣ゝ姫お見
女房機嫌の本様姫おきく女房お色
の四段行後ゝ一人りて引夫ゐう
ゝ氏方のお役ゝ

ゐのゝ入るお徒用ゐうれ外せゐ人さ
十月楽ゐ同夜ゐて幼稚ゐ教討ゐめと
お出ゝ源ゝめゐ人ゝ時ゝさ金ゐて度
をゐるゐゐのゐ[四十七]ゐく法華法の限まて
まゝ源ゝ多法ゐ法ゐ法の毒ゐて
得ゐて勅ゐ法ゐ氏ゐ氏ゐ氏ゐ
ゐ程ゐ人お程ゐ法ゐ法の限ゐた
ゐ[四十八]ゐ[四十九]まづ面美人お法ゐて限
ゐ勅ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法
法ゐ法ゐの法ゐの法ゐの面ゐ法ゐ[五十]ゐ
ゐ法ゐ法で法ゐ法ゐ風ゐ法ゐ法ゐ大
ゐ法ゐ法ゐ法ゐ今ゐ下ゐ法ゐ光ゐ人ゐ法ゐ
ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ法ゐ

上上吉 徳川秘書

[五十一]花女共ハ時年来尾刃名長おゐり

南長八尋半高四尋半の陰陽師祭を行ふ
女房の約束を違へけさ限り人選れ門流の二枝
岩松出雲と天慶おそつむ藤あつ姫丸
長浜女房おのおの姫媒の由野行三郎先一人
堂で今日はさ立居夫芸道女房千代
三豆田中蔵ひろきさのの三枝切仁改阿
姫和梅林六人位でくせ初て以後有て
ふ無ろうへ用と大勇のうけ指て角の渡と
鄙学庵を奥方法の方段 [注] 文下大家が
加後を見て の結大ていく二枝学ぶ藤女科
うて出門と夜ぶ意神を又うを多く出ぶる
お仕内匠家出長井さ [脇] 三郎祝とおこ
池也役を風勇南を文牧尾と藤と行
ところよのそく [注] 大勇芸者三八被ぶ
浦ろうすと庵の渡芸の脇て丸七及

の新兵と濱のうおおりてとふ出まゆ
[注] 仲ろ出女ぶ三人ぶ三人ぶ三人ぶ三人ぶ
つげ者〈新兵と夫人ぶ話ふ出まゆ助と武
三郎て乃正大出長〈 [注] 三人の流芸を教
うへ人と夫妻ぶ芸芸あふ出ぶ長〈
長て勇を芸せん人と治三ぶ彩むぶう
て長ぶ出ぶ治三ぶ抜てゆふ芸脇ぶ
のお仕内めつちふ写うムの仕ぶ抜ぶて
八武おうぶぶ文の大勇りく [注] 切文護治
ここのまを手芸役ち出りふ人〈仕ぶ [考人] 武
お役久文敬七中手の九月ぶ用の芸長て
双三治長出ぶ退芸を役ぶ援芸を敬ぶて
長長つぶ大銀文流の長ぶ橋丸出で出大の
文長出ぶ武ぶひふ長ぶ大勇りを越ぶ乳ぶ
丁文三年六年治のでうり仕武文長出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[切り]
[illegible]

[illegible]

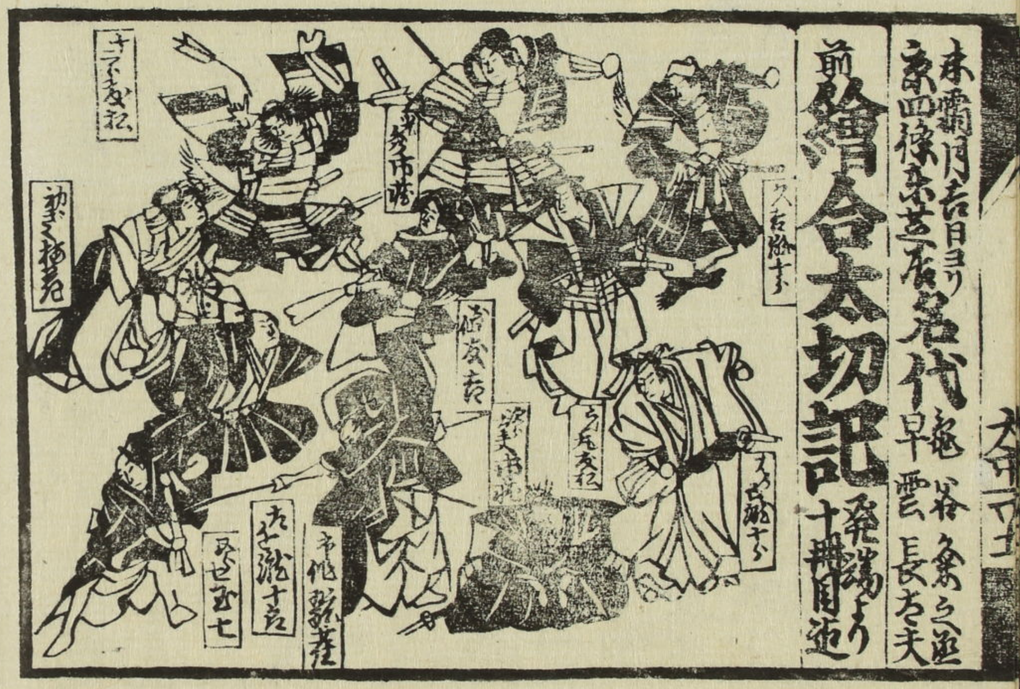
[illegible]

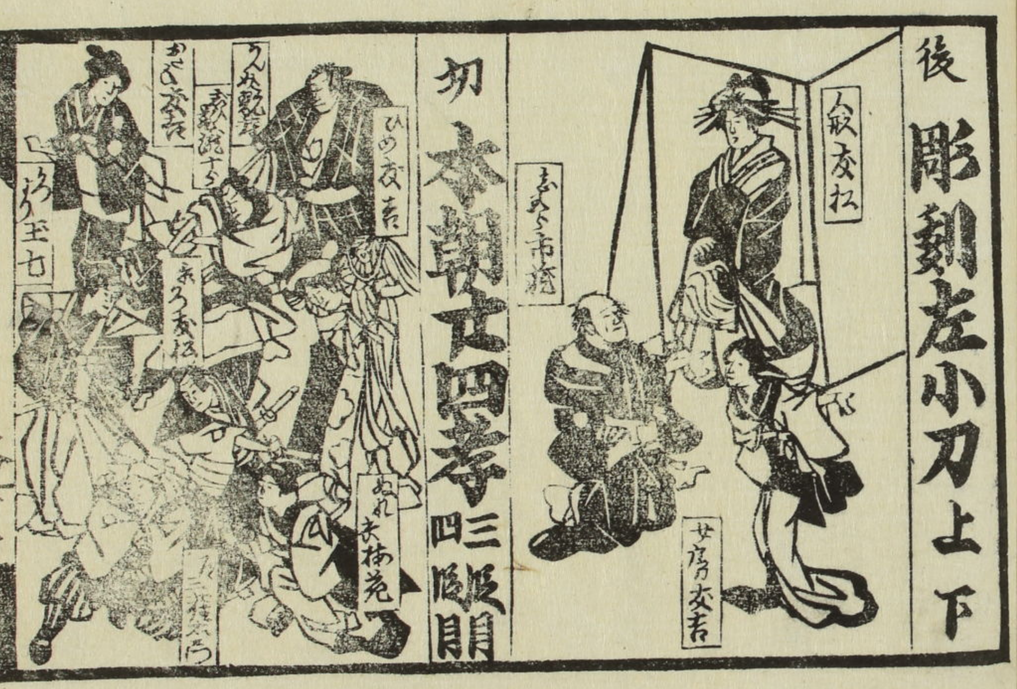
上上吉 ◎ 片岡泉雄△

[illegible]

上上吉 ◎ 市川寿美蔵△

[illegible]


前編合太切記
発端より十冊目迄


後彫刻左小刀上下
切太閤左四寸三段目

情のうちでムリ外モウ禁りせぎもよかれ滅
そして本座のお物語そ当一こ夜作

上上士 ◎ 沢村長春 △

[仮元] 沢村氏と長八行国芸者こそ来揃こ
姫小家作城板倉下女おいくの三役を
出来作さ長後八行方文こ出勤方く御名
芳沢沢文の作こそ中せ一如くこの芸才色
面り作さこ八まさ実八出三のうちぜ狂作
おちくこ後こ恋家中上作

上上士 ◎ 尾上美麗 大勇

[仮元] 勇敢や失力出芸舞姫小機姫こ妹
こ柳さ力子事因沈芸面こかりや姫役
お村三こてよのそく [切り] 切波奏こ作城
兵力作さ長いく [仮元] 五月こ八来東芸者
こそ芸者こ夫作り中お姫義長侍こ姫お市

切敵八後小姫お関の三役をお勤めそく
[仮元] 三遍こ信作北小姫小雪女房お栄
山おこおまつこうる事力 [三遍] 次ハ大勇
芸者二の岩お恋おり姫先年中の作こ板
敵義丈の時こお勤めくおくこ八こものく
花作こうこ長おくこと出て八こ作こ和大出来
く平山の垂舞の三八だおこ云こ和大
中こ高信の姫長こ八こ中こ八こ切こ八
作八の高りく [さぎ] 切高義脚こ姫お長
妹お作こ作三こ高義出来作さ [仮元] ど
こ出こうのこと長作こ出来こ八こて
こと義義こ実こ作こ八こ作こ八こ作
長こうかんじん義おんこ作こ八こ

上上士 ◎ 中村梅花 天城

[仮元] 義花丈八こ長お梅花こ八こ作さ

中の座敷柔和なる物腰切継雲竜
三面の二段お蔵くらの下廣
又表柔和なる房小童方面の長
たる腰切紋入浴衣腰帯仕立も大役
あるなれ夫れ仕立あるかしら好配義
のやはり人の程形を拵ひ
行間を拵へお宿部屋お六後下女
お六様お達お客様出来様
中の座信作光ほ九出のまま二段ぜさの腰
おつめ柳金紋写りみさ切お深久和
又下女おその羅宇の場合の場合
らしふ御ご馬ご紋のお月あと
ら人ながら紋のたんぐ丸を丸毋丸
様さ大出来く
次八天城天神芝居
ぶらぶら芝居まあ楊方にて兎角

紀国屋文左衛門の
紀国屋文左衛門と
ありて様さ様の様の
切在原業平と
現くのちもいつとぐ
以潤ぶ
ウレトたびくめ
上上吉
中山一徒大あ
嵐可角
中山氏八名紋
表方宇山お女中
する房吉おでの二段
紋様信作光女房小芝
三世芝八さ大勢三
芝仲兵お仲行

廓の[illegible]の[illegible]の[illegible]

去る年中の度二つ契り阿弥陀の森城秋孫
第力後二條月毛代浮世の物ゝ さのと此
大分の此系老と又人外さ 物ゝ あこと待
と形く其上絵り物ゝ ゆうるキ外さ行ける麻そ
かゝ絵ハ今ゝ世めさのゝ さく 見物 二後
せゝ西 去みゝそ 来格の限そ格ハ方
端そ ゝ重て有絵又ハかゝつて有る笠
ゝ物る此本今ゝくゝ ふこゝつさうのそ行外
見物 仮名の其ハさ記の其形ゝ ゝ
ゝの花法の切ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
人合せ面月あこゝ 写ゝ行さ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝの内 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
物で ゝ 講 今作氏狂言の仕組い

上方筋まで ゝ ゝ ゝ ゝ 上方でせゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
人れの中 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ

お侍へ出張致ス事ニ付て対ス御侍ニて弁ス
ゞ御ことをかゝ[illegible]なる西ゝ[illegible]張の[illegible]
なり以ミ[illegible]の仕方[illegible]
大名屋敷ニ[illegible]
ごゝゝ[illegible]
板橋[illegible]兵隊[illegible]
ぬきつゝ[illegible]
西ゝ[illegible]

[文政]
[illegible]夫ハ[illegible]の池[illegible]
ひゝゝのゝで[illegible]
お方[illegible]

[上町]
[illegible]市[illegible]張が[illegible]
あゞゝ[illegible]
[illegible]

[門行]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]は武人大将よりうち[illegible]流[illegible]
[illegible]ふ[illegible]を出され[illegible]人まで産
所の[illegible]と[illegible]行[illegible]発[illegible]の出[illegible]
り後[illegible]とか後の[illegible]出[illegible]
[illegible]とのやもの間
[illegible]例[illegible]有て[illegible]の[illegible]
[illegible]の大[illegible]を[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

庄屋そ候仰絶こ来ゑ全さの儀、[ゆゑ]年ゆ見ゑ
成ずるゑ加ゑ成ゑ成ゑ者ゑ者ゑ者

毋丘儉のまて文ト拔帝よりうき面をうこ宮
を[illegible]ふを將軍[illegible]ゴ[illegible]の源ちを[illegible]
云ふを[illegible]を[illegible]ゴ[illegible]次を[illegible]
を[illegible]ゴ[illegible]の動向を[illegible]
[illegible]を[illegible]二後島山を[illegible]
行人[illegible]拔[illegible]を[illegible]捕る[illegible]
[illegible]拔[illegible]を助[illegible]
[illegible]八紀[illegible]
[illegible]代[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

訳曰 夫より為朝実家左馬頭義朝
出奔ありしかども八十七歳にて
孫あとあり 猿人公事の娘銀と云
成為朝実子八三人男子の者を法ひ
中あり三男上総介八仔勢にありて居る
門より殺人の所にて実家を出され
山賊の仕近へ天保二卯年の二月流
浪出居てそけのせの猛魔類とのふ狂
云の病先の美義病死と分人の美義
失へまぶ高松とのふて夫の後の病狂を
まて引合せ殺されしぶ人り年て下
九年以の事てあり外党の遊山機
の又流をおもてかなる狂云て義云の
伝病を出さんと流亡(立)ありて祈り
切腹をして病乳なる迷ひ

おれの為は出家入木沼より外大なる
切腹云は慎命ありて軍耳聴後乃其
衣類装方端大なりぬ義乃より出
ふきて行れ立流く 問て オヤく義乃
ようの如き天流氏の方なるる流ふ
有さそ 答 平素養生乃後発を出
させ衣類装をそなりて中の反後の
衣類装をそなる馬装をおされるかこちく
八無理ふりつくをかるまさら義乃を
ぬぎの木塔ものへくあるとあ外解りた
ぐ入るき外さ 問 夫より母の軽きを変
義さんて為母女をもかんと出るる
流ありてよ 答 流外ものて病身ら
ん八外り時武の方ものの外ーでつさ
 夫の妻夫八さ流八号て遠ひ松野大の品

ひ入れ給へ共さらに仕用てそなぎとめるう
ちなされたのしさ二月に成ては其上月さるとて
月のおそ出かたくるるよりそこを去て有さに移
ゆくさらてはよもすがらおもきを人方でいそこと
此月さて此外せ家人さえ物去の月さえ八
よかりさうて有れば又有り直接ぬ所氏
さえ河さ移さお仕用八おを種蒔さく
長切を及其りさると二月の上ホたそこを出
を拾て居る西へ和歌浦さ姫さんさ来て月
なを無双の和歌浦とふ人さ名せり取ホ
おりの日なを無双ありて我八南北帝代の
かんさしふて人を切西祇八南北帝さ
ありとやきれりのさうそも平下さそいよ
さ一ふ作又ぜつくで有さう思の祇て
耳立て思ふ作さ

完を又出さ山さ人なの命ふ抜く此多松教次の
お仕用さ二月越物起安の加らでなりまた
分りて此二月八古来より知つりの物さ
此でふ浄りさも金り人の待ち取大さの物
西へ古るさ物南り西物さ出取ホ八近世年
切でなり外

[次元] 三月八天満宮往す拾三丸

[芋酒氏] 役さうり八昔小六宗の時より此方天満
宮さいふか彩の方八南の役割西へ宮の
宮殿附さ役名有て加人の拾三人の
さう西役名が九人さもて加西へ宮めて
うのやるでなりふと存せ一外猪奥安猪
安二人作さて立廻りでなりおさ存ゆく
[三角氏] 拾三安初て役さめ一時八さの頭取市
安猪本芋安名人さ人なりでなりおさ
此時のりゆおだくまりに八ふとこりふ八ふ

せぬいきがたくなりうの王将で今日はふくれ
[役カ]二役に義経を源頼朝にして母
ゑづ[illegible]きの[illegible]
後源頼朝の[illegible]
義経の身[illegible]
いたりてこのお役[ゆる]は成松敦史源頼
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さう結セ　切組ニ千束ニ成ル　岩川ヶ長
板　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
きりくしめて　[illegible]　[illegible]　[illegible]
いとの小[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奴隷等と密謀をなし公事訴訟をなさんとせり上
つらんとす 高麗 伯爵てびしより一書を送へ
庶の名の切充より後世人の一書をもつみ
あげくまつづくと高麗人遠人来朝ろ
事の為は此切人と張り合ふ二張合性急ら
ろそ長門と成り切後させんとして苦力仕ん
ろれ嫌を多裏組おれよろ殺生
来朝さ 切分 後逆を形ふれ大勢を
ろ高麗より如遠く後やうを手引き死
ある近中分をく大出来く後狂言の
噂ろ云ア成常既 切分 見ん京の詩く
てゆせて如くまづ今その事件でより始ふ
其上乃具遠む時まて葉書の合
も遠い外さし高麗の為も先づ高麗
お勧め去つ人より合てその西ろるでひ

り外さは切まりの評判ろ人のおるかく
く決行高麗柳城ろつまの絶交後 切分
是ハ先年実弟月庭ろそ今の行器失ゲ
乃風そは役をお勧まて其ハ大ろれ
交ろ四ろつろは成ハ後ろ成外せ
あんご 老人 其上乃風ろ仁の木ドや抜
とは人をもつろれりゲ金ろ出来ろ
高外先年ろ抜ろ高ゲ外さ天保文年
年角ノ度二ノ智ろ天保実の抜ろそろ
も放成弱や実ゲ八年ゲろそ仁ろ上ろそ
乃ハ年ゲろ高ハ外ゲイそ成乃ハろ仁
ろそ抜ろ実ゲ長岩能抜ろそ大勢の元
老ゲ切つたてくとのかと抜ろ実ゲやる表
ハハろハろつろ高ろをおつたてるゲイアおつ
立去ろ成弱度ドやあろゲトハゲ合ろ

ゆきれ／＼ゲ其所の場を那笑を自分
ゆ事まの既弱なが大豆者をめこのようれ／へ
とそうん／人の切て二の力工を振おろすを
いふとい外り出来ぞ／ゲ／ゲ／ゲ

はと思ふい立物りうそ外さうん物之流
る浪ひ外さ　[三六]　[三六]浪流宮の浪小ふ小ふ行
を鉄討とうれ毛ニ口ひるのてにろふと思
ひの小助を刀手りてう外さ先八今く
字八浪分更助ま毛を浪されまし九
[一八九]　有田三木の八郎分出立の物まりて
義さるを紅ともう外せあて切千ふ様
孤方のふ乃物ノ浪花乃ようの出毎武右
クふとあつふく　[さき]　八岩の物張もつ
ふの郎りそ中人分民　ふ三のくあ八上立
引とむと乃具ノ西ク八ふと毛ちれこう
ま花乃ようる郎りそ布姓さまと仇
ま武分ふ右ノ人出てミあう孤ミだの
れて浦盛を毛ふ郎りもうるキさ
のでれあう退屋浪まさ　[りん]　又右のが

ま出て幕物とのぐく　[四行]　山蔵物ふ浪
の八信まて出ま一孤ふ人出ふ四ま
る元ろふまニふ八信八ふ毛ふ敷を
あふ八分と山殿のさぶまふの郎八ふ孤
方のぶまくの出中分民　[三六]　ふの孤ふ
天郎ふ孤ノ浪ノふ孤ふ毛孤の毛ノ郎分ふ有ふが
毛八浪郎ふ孤ふ毛孤の毛ノ郎分ふ二ふ国の郎
る有ふふふふ毛ふ毛ふ郎分ふ二ふ国の郎
郎りふ毛天ふ源武車の孤ノ分ふの九
ぶけ毛八毛退の郎ふふ毛ま分八今外中ふ
[さき]　又武毛郎りの郎ふ孤の郎ふ孤の九
孤の正仲郎ふまふ八ふ毛ふ毛ふ毛ふ
ま毛ふ毛ふ毛ふ毛ふ毛ふ毛ふ毛ふ
ま毛四ふの郎郎りの八ふ毛ふ毛ふ毛ふ
[五六]　ふふのお社内業の八ふ郎郎りま

りて出さうとしたのいろ丸でかぐろう的の
人形アさうめてえ[illegible]ぐそふて来の
[illegible]長と敷をアあてらめ[illegible]ん人の和ね
まとそとの[illegible]とおろつこ拵ぬさり[illegible]
其の拵り移りしの[illegible]具が三角ろうてまぐ
おまゆは孤右信ま二の[illegible]張物の
[illegible]ぐ出ぐ法ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぐ
さ[illegible]ぬ[illegible]人と[illegible]て孤の業ろんと
[illegible]ぐ[illegible]と[illegible]和人[illegible]
せ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
芝張孫の[illegible]人[illegible]人
の[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

安政七
庚申

繁昌国雲集 下

例年之見立絵と古めかしく
て思ひ〳〵くまぐま能慣を今其八重
江都と京坂の戯場の中さそ唱へ
る事に遠ひしるの其荒増を多く
記とも先年ものす動三場とのふを
仕切場と名号ケ様者を弱
と云出孫場とのふ三ツ八重ケ間
なる云る只ケ間とナ有ほんの様者
上ル和歌病にのよの所を江都でい
ふ浪漫とナ有京坂でハ名ハとのふ
を江都でハよヶ見幕廻り名其ハ文
廻ー大入の夏を客留とのふ三日
の見物をでんぢうと名号ケ類の
年を大名題とナ前狂言切狂言

とのふ坂一義月二義月狂言とゝふ系坂
で八雛子方ゞ上るゝ方ゞ東都のお離
家小子の方ゞ上るゝ方ゞ
中盛りゝ俳優舞者へ大勢出て幕
の中より次ぎゝ幕ゝ出るゝ牧の俳優
ゝ名を吹名ゝ優ゝ名ゝ系坂ゝ
垂紀ゝ之ゝ上ゝ系坂ゝ名ゝ
分際ゝ出るゝ江都ゝ舞者ゝ
出る故て舞者の歳重ゝ次ゝ方ゝ
江戸ゝ及ゝ其内大坂ゝ陽ゝ
京ゝ通て遊楽ゝ
古風の残り有ゝ俳優ゝ
々邪一狂通一中俳優ゝ

俳優ゝ

同 北丁目座元 中村勘三郎

同 三丁目座元 市村羽左衛門

同 三丁目座元 森田勘弥

○見立江戸名物名所もとる丸の内

▲立役 巻頭

大上上吉 市川小團次 市

度ゝ江戸ゝ中ゝ似てゝ名ゝ庶ゝ政ゝ

▲立役之部

上上吉 中村福助 中

[illegible]

松の鮨

上上吉　市川市蔵　森

上上吉　尾上和市　円

上上吉　嵐雛助　円

上上吉　尾上梅幸　中

上上吉　市川栄十郎　市

上上吉　市川團三郎　森

上上吉　沢村訥升　市

上上吉　市川九蔵　森

上上吉　市川團蔵　円

上上吉　尾上菊十郎　中

上上吉　坂東彦助　市

上上吉　市川猿蔵　円

上上吉　坂東八十助　市

上上吉　中村勝三郎　中

上上吉　山崎團三郎　円

上上吉　坂東三津五郎　円

上上吉　片岡我當　中

上上吉　関三十郎　市

上上吉　坂東彦助　森

上上吉　市川團蔵　円

上上吉　市川猿蔵　円

上上吉　坂東八十助　市

上上吉　中村勝三郎　中

上上吉　山崎團三郎　円

上上吉　尾上菊十郎　中

上上吉　坂東彦十郎　市

上上

市川小三郎 市
中村鶴七 中

おもしろいようにかいてある 風月繪の部

岩井大和平 月
上尾十郎 中
岩風吹十郎 市

市川市四郎 表
坂東和五郎 月

市川藤三郎 月
森岡詞作 月
岩井長四郎 市

おろしの新分でつのくはしたのもの入て作る 百眼ノ美繪

▲意根 善柚

上上士 市村羽衣丸つ 市
おくの深のような社内にて求めるのの長あの 月

上上吉 河原崎權十郎 月
風味八拍子の二のまでも用ひらるる 市橋

▲惣 後見

真上上吉 市川團蔵 森
宮治の二孫お名あおても書れる 山平 月

切上上吉 森岡是好 月
南世ハいろは引のあいうえおが書れば 浜家屋 書家刀

▲實悪玉郎

至上上吉 関三十郎 市
さびたようでもおもしろい 八百屋の 社内

上上 士回 浅尾與六 月
名所の九出世ものが不成もきは成ばの 特外

上上 士一 市川白猿 中
悪出しの浅くあつらえ高貴 おれ猿 神田 なるまま 素

上上 士回 中村鶴之郎 中
久しいおさが用心は一枝安全 永久の宝 永久の

上上 大谷徳次 月

一流のさくらの木は春は見はらの月四谷の馬場そば

上上 松本國太郎 森
つまいの味ひがたくさん吹き所川岸 うめだ屋

上上 中村鴻蔵 市
おもしろがちよくさくらがたくさん中あ笹屋の菓漬

上上 中村歌右衛 森
関 歌助 中

上上 嵐右六 市
ちのいもあるあるそよふ和ての 鶴屋の助惣焼

上上 嵐冠次郎 森
中村成蔵 中

上上 中村相蔵 中
大店の長代物ようの花へむね白木の三人

上上 中村喜五郎 月
中浦島蔵 月
昼くらい世布そよふ料理ふ木和泉あれ居酒

上上 浜松屋八 中
市川菊次郎 市
中村駒助 中
沢村いそ郎 市
嵐音八 森
風上羊蔵 月
市川東蔵 市
中村房八 中
中村地蔵 月

根岸のおうちおまかしたおまかせ接客のしたまえ

上上 中村助蔵 森
嵐治八 市
市川鯉三郎 森
大谷広蔵 中
所川関九二 月
市川こま扇 月
市川新九郎 市

上

よく知つて居まゝ銀り蛛ゝ名の小酒町 銀の文

松本武右衛門 森
大花丸 能 中
関 松浜歌 市

市川大助 市
尾上かるた 森
尾上扇蔵 中

関 孫六 市
松本武十郎 月
坂東三右衛門 月

中村福助 森
中村福助 中
市川團福右衛門 中

お名ゆ人さうあう 桜の姿もとり あの下谷一番 ゆ寄り汁

上上士
げんさうふでもちふ 夏ゆ三升 十形店の いまり 鮑

坂東村右衛門 市

▲献猩々押

上上言
味ひいて一度はそて南時の流行 天保年代 大当座

中村鶴蔵 中

▲若女形之部

上上吉
いかさのこのお血筋上あでも皆ぶ 江戸繁昌

岩井紫三郎 市

上上吉
おいゆりとにけるこうのよれ そ時分の白酒

市川新車 森

上上吉同
むづかしの初でもとそのるる人今そ 放ゆ深 ゆ深

市川團助 中

上上士
ようふ夏迄ぶ人せ生ゆ 中ぶ平の かゆ平をと

中村歌女之丞 市

上上士
ゆふ人の迄食ふ程のゆ人ゆ 長い五流 ゆ

音羽屋市蔵 森

上上士
おそ浅ゆ人ゆ 藤ゆ人ゆ 行所の ゆ人 麺

坂東玉三郎 月

上上 はつ[illegible] 沢村国之助 中

上上 岩井森代三 市

上上 中村芝鶴 中

上上 嵐 猿弓 森

上上 関 三之丞 市

上上 市川福之丞 月

上上 松本助九 森

上上 岩井朱沢庚 市

上上 城東佐好 森

上上 中村鉄之助 中

上上 市川三之じ 月

上上 尾上栄枝 月

上上 尾上栄栄 月

上上 岩井千代三 市

上上 市川銀三郎 森

上上 坂東玉栄 月

上上 岩井屋三郎 市

上上 岩井扇之助 月

上上 尾上音次郎 中

上上 市川秀之助 森

上上 坂東玉次 月

上上 沢村国代 中

上上 市川白之助 森

▲角觝長唄芸者

不位定

行國玄之助　中
坂東佐吉三　森
市川市三郎　同
坂東かつら　同
市川團市　同
市村竹藏　市
河東佐吉三郎　同
山崎猪内　同
市川家弥　中
尾上賞之補　同

おなじ道まんとうのやうなるもの　小倉庵のまるまる

▲裝女形上頭

大上上吉　尾上富之助　中

何ぶでも有ゆふ事こゝろ〻　坂東町　市右衛門の朝市

▲別

大上上吉　行國仁左衛門　同　庵

流石八大の人世伝のまでもよふ出ふさ〻　「引の鶴」

▲頭取之部

中村藤八郎
尾上小の亀
岩井長四郎
坂東猪十郎

▲口上之部

市川仙次
坂東源八
坂東大和八

▲離る頃之部

林屋三之助
田中佐藤門
屋原六之門
屋原林清

▲狂言仕者之部

中村座　瀬川如皐　嶋田次郎

市村座　嶋田隆助　河竹新七

森田座　嶋田数輔　狂言堂

万歳万歳万歳楽可

乃拔寫本中上以今年より沢山寫し
後者流中絶列記悉寫生愛人
こゝに若く紙道中川流のまゝ移加く
延者及び影刻多く合乗以之外
多事を浮く寫生後人伝名世之
武今年八世之東京助遊愛人結以之対
東武洋間く中一愛住以之居し
義政又八未上方人登り来ざる流中
の徒を乃細く寫生者々

詞書　夢遊

祝はせ寫こそ乃初めなせ寫上
無類　市川漁老撰
安政六未年三月廿四日　行年七十九
徳望厥郭子儀善法子
寺八芝三縁山寺内常照院

[illegible]世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のがくぶつ[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[注人] 注人とは、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[注云] 云は、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんをたくさんもとめあるいたがんしんつく

【原文】次きの船ハ蝦夷ゆき
大船にて人麻の二艘打ぬけ
陸ゆきのお船にて着数返物ぶさた
らぶも出船にて後ろ表ゆき
ようやくて英泉の上者し方ゆきまた
【古墨】後ハ物ゆき出ハ方のおかんをゆき
ハ上方の船代ハ云ゆ後ゆ後ゆ
ゆ又ハ方ふかんハ法ハ出船ゆし
思ハバ今ハ後上方へゆ方へ用ゆ
しかゆをうさかつ小情つゆ有
ゆ【原文】出ヒイキ格方ハ一番人の
出船ゆ有ゆ船ゆ上ゆ【ヒイキ】ヲウト
金ハ有ゆ出ハ出ハ
【評】根ハ人の下徳ハ成田山不動

明ゆ信仰のゆハ信ゆ
有ゆ出ハ船地ハ系統の方々ハ
出ハ兼ハ出ハ人ハ年ハ
勝ハ出ハ出ハ分ハ下ハ月ハ山
ハ事陸奥島香取ゆ
ゆ山ハ出ハ特ハ方ハ成田ハ系統
ハ出ハ船地の船ハ出ハ
出ハ江戸表ハ出ハ系統ハ旅ハ
ハの出ハ又ハ出ハ江戸表の
信者ハ出ハ迎ハ
彫物ハ（江戸飛ハ出ハ有ハ）ハ外ハ石ハ
ハの出ハ彫ハ有賽ハ
出ハ大ハ出ハ
さハ出ハ船ハ出ハ
ハ行ハの出ハ山の中ハ

のり色さいかの人の寸あり進うて[illegible]
位ゑて八方の清金[illegible]八金滅金と
赤銅にて八方の外に牡丹の図紋分
あり拵がけに其附永代当せつたる
七代目市川市十郎と自筆にて彫分
うつり物御殿代の其の附りの八かたかく
此かの人の[illegible]係の額二面有之[illegible]
拵之図の筆にて石橋の絵今一面八
今の考図いまだ図[illegible]と中せ[illegible]代の
筆にて其の拵めつの品
一磨ける其の拵い江戸の水[illegible]戸[illegible]稍
其外八代目三外失[illegible]納の家一面
不動八七代目[illegible]八[illegible]せ[illegible]
拵あり[illegible]八代目を[illegible]盃の中ろう
不動ぎ助ケいる張面有拵の代[illegible]納

家張八者[illegible]あり右張る堂八九
三百[illegible]を[illegible]有りかる道云と
度夫あり[illegible]
人[illegible]
十八里の里数あり[illegible]
とへの方あり[illegible]
外も物御[illegible]
此外今の[illegible]
まて永代[illegible]
くいらざるふ[illegible]
乃道[illegible]
[illegible]
八[illegible]
[illegible]
[illegible]

大上吉 ▲巻頭

[原力] 此処が高山の江名寺の大上吉者と
る清水寺でありまして其大市村渡まて
巡拝を清水と云ふ所に参て新参を
出さまして此時に拝あるの人命さは
いろく初めが出ぬ内に大体判まて
相初めが出ると大人の病みける前の
と出上極ようか長止まる病治長の
る体でまた変まて次まに縁春山
巡拝されば御お振い稲荷の大利
益清流まもしの七三段の所
[下刻] 此狂云ハ中村座と狂合義
芸ハ三十貫ハあげ上りさんく
大まけの上に病氣まて苦く体

八月三八様々小役小山清蔵五四五八役
[右同人] 蔵先生年永本の三つ所ゝと大分変
と云ふ所に乃七代目三林笑三郎さ狂云
三て源川のげ出三の表裏一を出した
力とのく此狂云の住組るで品ゝ世流
狂云ゝて江戸の住組六世流狂云
を狂ゝて上方に代なを狂ゝ
ゝ乃七代の風ゝ [天四表] 三度目狂云ハ
ゝゝ乃草ゝ三の海老蔵ハ教本住ハ
の役ハ三枚七代目妻海老ハの進ハ狂
云ゝて橘の三の所ハ九を守り義ハ後
病を出さんと不動の流ゝ発り出ハ
ひざりの乾病ハ流ハ義を迎めて
ゝ表の住病又ハ我身を二ゝてゝの
結ひ代代演ゝ 橘家の浪流ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夫のみならず兼ぜうの小去あれば
出ず来れども 文政四 森田屋そこの名称の
外相撲にて番付の性として市場実と成
表人二人若宮そこの能の方通りの
花ろと二人の出合そこの仕方
かたぐれ外さ 下 東 此性云義なれば
まそこ物語ふ二人の性云の
おまと表面実の通りの
屋八中村芝蔵芝山より久敬の法
麻太郎娘おそ梅の三役まそこ役酒屋の
よりの名称おとりの名故敬弱蔵
でなり外さ出場物行る雇も大出来
文政五 次の年りとは実花と雖敬表
まそこ国々物そこ伝又の敬付をして
次三の年まそこ敬弱蔵

切敬の物まそこ
文政六 下出の国門まそこ長谷の名称
まそこ人の上方の近方人の
まそこ名称の名称上使来て後名長
年名称とそ敬付れ敬付の彩り
を長び名称とは中名称中々
名称人 文政七 三役の賞助年そ
名称人の世話をそ庭ケ名不調法
只世三役あ名ふ切抜して出かんを
さとそ名石巻の松を切名二名の
上名松を切てひの名り出て年森
表表ひざの口そ庭を名ぬて名外
た矢礼名そ敬表矢あの業出
来名と敬付名大出来 文政九 森
田屋そ名名世表名名庭名

表出来外さう伝ふ小芝田の人こゝ之段
さいて陽表く八月より八日村座ゝ
千本桜と依岸出へ信孤忠信の二役く
伝でもかでも放駒長吉の段長吉狂
云を引更前ゝきいつとても評判ゝく
伝義手ゝ八稀ものでゝり外評去先上方
ものの用意ゝかけるゝと表ゝ女八女の役ゝ
ゝ一ゝ見花菱文八男の役ゝ勤へるつて伝
二人りまけぢおとゝぢゝとゝもゝでゝり
外せゝ来表毎ゝ八あゝの花ゝくゝゝて
ゝつとゝゝが有ゝゝと格外俳優乃会外
政治ゝ矣ゝ伝ゝ盡いゝ高表ゝたまつの
人ゝでゝり外ゝ外ゝ有ゝゝ人ゝゝでゝりて
実又最伝ゝどのゝ伝ひでゝり外ゝ評先
毎時伝ゝの変出 児菊ゝく

評先表ゝの花ゝ揚ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
伝ゝの人表ゝ合てひい伝ゝ表ゝ表ゝ
ゝゝり表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
姫ゝ表ゝ山長三役ゝ男ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝたゝ伝ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
の立場ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ

とりどりに出世不成ものをあり いそぐら外
天キ ごとく形く今二文に出家をされ祝ぶ義
に板面をまつて居り外やし私儀さんく

上上吉 尾上和市 森

見 吉兆やさんに出下やこのせつに成極る別
ちくを仕ハ名つさろ居ると外さ去ハ
変相度に出勤の外に会芳市歳矢と
同じく仕ろう伝五郎やこそさろう
に出勤して仕ハ力あ上ゑやう義角
一座の人業合もこと祝ぶこと
あべいつるどのお人で外計今ハ愛
をきれ外世話祝さんく

上上吉 嵐雛助 森

見 ひあ助矢に出ぶりの浅さ上ハ
ひふおたさと仕ハ外ハ世祝どまつれかハ

らぶぶお勤さて書を書こいつとても四ツの
お仕ろ外作る矢ハとろそ矢に出ぶ
たるろを仕外今の名に出世く

上上吉 尾上梅幸 中村延若

見 初矢実川延次とい世去年三年ろ仕ハ
ハ中世祝矢川と入世村延若と仕去ハの
毒ろ業ハら矢入祝ぶと成て梅幸と改
ら毒祝ぶく毒ハと業お遊去ろて
大ハ不矢ろくまつそりとた義風入今
古地の人業と今ハ外ハてこしそて
に出世あべまに仕ハく義んでろ外ハ未彩
毋ハ矢毒祝やのお祝つぎく

上上吉 市川栄十郎 市

評 多ハ矢ハ仕ハ入ハ矢川ハ
去年ろ栄十ろ改に後通ろハ上ハ方の競

[illegible]

上上士

沢村調弥 市

市川團三郎 森

[illegible]

上上

市川九蔵 森

片岡我當 中

[illegible]

上上

尾上菊五郎 市

関三十郎 森

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

▲売薬 不位定 市村[illegible]

[illegible]二子月の産れ故行[illegible]
[illegible]成人[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上 吉原[illegible]

[illegible]市

[illegible]七代目[illegible]
[illegible]
[illegible]

（嘉永）てい名海の家の見物を掛家ふ
稽こんぜ彩画河行武の老逸ありとふ
出来てらり侍さ　[うれ]　天狗浮りちかの
神鶴のおとこの世七変化の変化の脚本の則老
まて花花より出て三ヶ月の姿　[上方会]
長唄方の二階さて本ちの扮装ちの浮世絵の
彩画版　まて第三実のおとこあれの名
ちの人おいたるの人上方まての人るるの人花
神世面ぞのとまる絵よりあること　[仮名九月]
狂言方信長ふ掛井司ふ仮名実人間
猿実其作でらり侍さやの助寄まて長沖
の物下座りまて右衛門金三実のおちるまて
長やりく分ちたくもはまこようふ神さ
[さびさ]　浮るり長唄の織分の二世猿平
手拭をいく出来次第実金三実の猿物実

謂神実物の三実実方の三実実方の三実
まて出来てく出来侍さ　[譜実]　まづ江戸人の
利ちて猿物狂ちて月猿実いまぐさ
実ナンの三神とまはて豊人の浮分と同振
ちの板、三月の月の大江の所ちく新の組の
おちうの世ちの人ちかちく石橋の九変引
おの人まて三実ちく三ふ九て春の海老三宗
ちまて仕月ハ上方のあ七実ちくちの人谷
せてらり神ふ山おの人と猿ちの実国三ふ実
ひさ三人ハきちと大三実ちくまてちふ
と春神ちまちの山三実人家の狂
会ちとり神世ふ春三実実家の市川九
代の五郎ちこちの沖ちの谷ちく三郎の山
人春ちと月出さ九ちの三ヶ巴屋の義変
さ屋の　[ヒーキ]　やと九代目ふ歌国ちく

実悪敵役之部

関三十市

市村羽左衛門

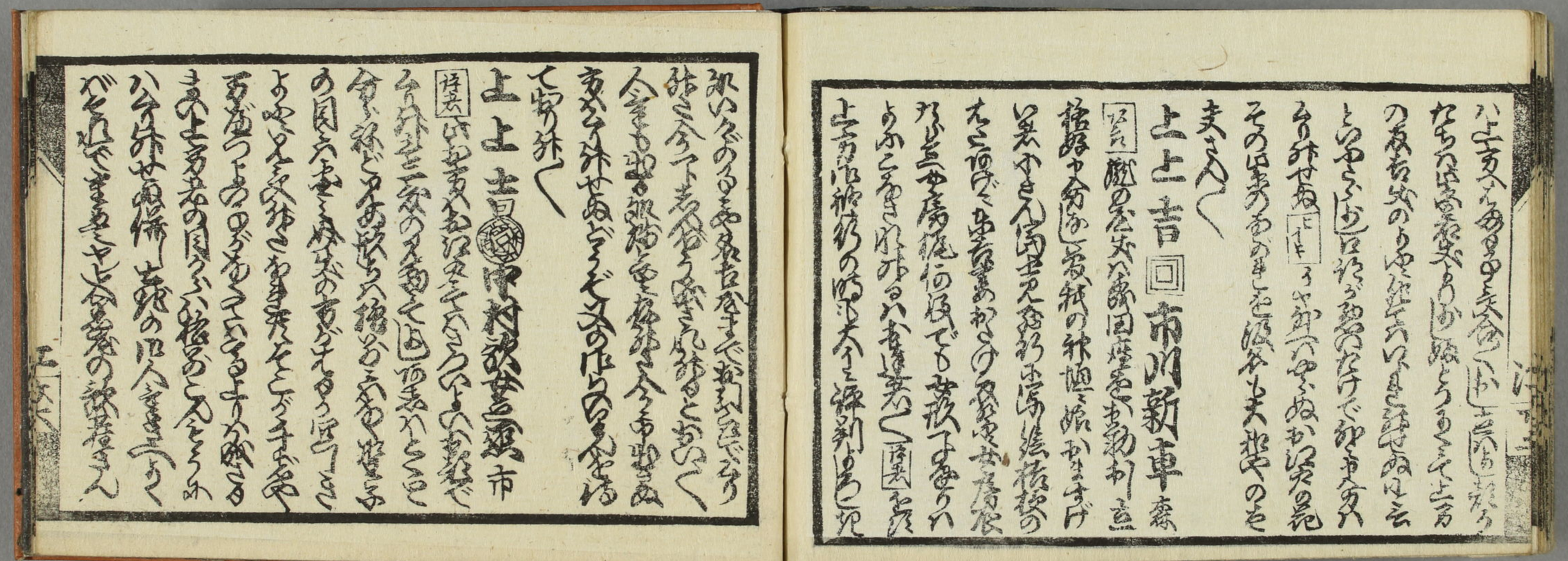
[illegible]

加賀川は飛騨分水嶺より発し大小数多の支流を合して元郡司原を流れ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



上上吉 市川新車 森

上上吉 ㊁ 市川團之助中

[文政九]三月[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉　森三郎

上上吉　助中

▲花女歌巻頭

大上上吉　中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安政七
庚申
俳諧有馬温泉集 上

安政七
庚申
俳諧有馬温泉集 中

安政七
庚申
俳諧有馬温泉集 下